

### Ⅲ 選択評価事項B 地域貢献活動の状況

#### 1 選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」に係る目的

##### (1) 基本的な目標, 基本理念及び社会貢献に関する目的

本学は, 基本的な目標として「三重の力を世界へ: 地域に根ざし, 世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」を掲げ, 基本理念として「三重大学は, 総合大学として, 教育・研究の実績と伝統を踏まえ, 「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人財の育成と研究の創成」を目指し, 学術文化の発信拠点となるべく, 切磋琢磨する。」と設定している。(資料B-A) さらに, 本学の「社会貢献」の目的として, 「教育と研究を通じて地域作りや地域発展に寄与するとともに, 地域社会との双方向の連携を推進する」と設定している。

##### (2) 法人における中期目標

本学の基本的な目標, 基本理念及び社会貢献の目的を実現するために, 中期目標において社会との連携や社会貢献に関する目標として「地域に根ざした知の支援活動を促進する」と定めている。さらに, 教育・研究等他の目標においても地域貢献にかかる項目を設けており, 全学で地域貢献活動に取り組んでいる。(資料B-A)

##### (3) 関連センター等

本学の地域貢献活動に主体的に関わるセンター等として, 社会連携研究センター(地域戦略センター, 地域圏防災・減災研究センター), 高等教育創造開発センター等が整備されており, それぞれの目的に基づき, 地域貢献活動に取り組んでいる。(資料B-B)

○資料B-A 国立大学法人三重大学 中期目標(抜粋: 地域貢献にかかる部分の例)

#### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### 1 教育に関する目標

###### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

地域・社会に貢献するという目的をもって真摯に学習する意欲や大学での学習の基礎となる学力をもつ学生を受け入れるため, 入学者選抜方法を改善する。

##### 2 研究に関する目標

地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな研究成果を生み出す。さらに, その成果を教育に反映するとともに, 広く社会に還元する。

##### 3 その他の目標

###### (4) 附属病院に関する目標

地域住民への健康教育や医療人の生涯教育に貢献するため, 自治体や地域医療機関との連携を緊密にし, 地域社会の保健・医療水準の向上にとって必要不可欠な指導的中核病院となる。また, 高度で先進的な医療を安全に提供する。

#### V その他業務運営に関する重要目標

##### 1 施設設備の整備・活用等に関する目標

三重大学の特色である三翠(空, 樹, 波のみどり)と伝統を生かした, 人と自然が調和・共生する潤いのあるキャンパス環境を創出する。

## ○資料B-B 関連センター等の目的

## 1. 社会連携研究センター

外部機関との連携・協力を深め、教育・研究の進展を図り、地域社会における産業、文化と福祉の向上に資することを目的とする。

## 2. 地域戦略センター

地域作りや地域発展に貢献するとともに、地域社会との双方向の連携を推進し、大学が生み出し蓄積している知的財産や人材を地域の自治体や産業界などに還元することを目的とする。

## 3. 地域圏防災・減災研究センター

本学の研究成果及び人的資源を活用して、三重県を中心とした地域圏における防災及び減災に関する研究、教育、社会連携の推進を図るとともに災害医療に寄与することを目的とする。

## 4. 高等教育創造開発センター

本学の教育目標の達成に向けた教育諸活動の創造、開発、推進及び支援を行うことを目的とする。

## 2 選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」の自己評価

### (1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

#### 【観点到る状況】

本学は、「教育と研究を通じて地域作りや地域発展に寄与するとともに、地域社会との双方向の連携を推進する」を「社会貢献」の目的として掲げており、この目的を実現するために、中期目標において社会との連携や社会貢献に関する目標を定めているほか、教育・研究等他の目標においても地域貢献にかかる項目を設けている。これらの中期目標を達成するための具体的な措置を中期計画及び年度計画（資料B-1-①-A～資料B-1-①-C）において明確に定めているだけでなく、教育・研究・診療等さまざまな分野においても地域貢献にかかる計画を定めている（資料B-1-①-D）。また、本学の社会貢献の目的、中期目標、中期計画・年度計画それぞれについて本学ホームページに掲載して公表するとともに、各種学内会議において教職員に周知を図っている。

資料B-1-①-A 国立大学法人三重大学 中期計画

[http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20140409\\_cyukikeikaku.pdf](http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20140409_cyukikeikaku.pdf)

資料B-1-①-B 国立大学法人三重大学 年度計画

[http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20130409\\_h25nendokeikaku.pdf](http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20130409_h25nendokeikaku.pdf)

資料B-1-①-C 国立大学法人三重大学 中期計画

### 3 その他の目標を達成するための措置

#### (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置

##### (①知の支援)

- 1 公開講座や市民開放授業等、地域住民が参画できる教育活動を充実する。また、教員免許状更新講習等、社会人（同窓生を含む）のキャリアアップ教育に貢献する。
- 2 大学が保有する学術資料のデジタルアーカイブ化を進め、公開・展示したり、それらに基づいたシンポジウム等を開催する。また、それらを保管・展示する施設整備を進める。
- 3 地域の図書館等、情報関連機関や博物館等と連携して情報サービス体制の整備を図るとともに、大学の施設を活用しながら知的情報を提供する。
- 4 地域圏防災・減災研究センターを中心に、三重県等と協働した地域防災活動を積極的に推進できる人材の育成など、地域防災事業を推進する。

資料B-1-①-D 国立大学法人三重大学 中期計画（抜粋：地域貢献にかかる部分の例）

### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### 1 教育に関する目標を達成するための措置

##### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

##### (④学生の受入れ)

- 3 本学の教育・研究資源を高校教育に役立てるため、引き続き、出前授業、SSH、SPP、サマーセミナー等の高大連携事業に対して重点的に取り組む。

## 2 研究に関する目標を達成するための措置

### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

#### (②研究成果の教育への反映及び社会への還元)

- 2 研究成果を広く社会に還元するため、共同研究や受託研究等の推進、特許の出願・企業への技術移転、ベンチャー企業の育成等を推進する。
- 3 市民や社会に向けた研究成果発表会、研究業績の紹介、ホームページ等を活用した研究成果の周知活動等を積極的に行う。

### (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

#### (①戦略的研究推進体制)

- 3 社会連携研究センターによる自治体等との各種事業、企業等との共同研究や受託研究、特許の出願・企業への技術移転、学外拠点の活用と有効な連携等、産学官連携活動の支援・推進体制を強化する。

## 3 その他の目標を達成するための措置

### (4) 附属病院に関する目標を達成するための措置

#### (②社会貢献)

- 1 地域の救命救急医療体制の充実に向け、県、津市、医師会等と連携し、救命救急センターを設置するとともに、救急医の養成システムを構築する。
- 2 三重県難病相談支援センター、へき地医療支援機構との連携強化を図るとともに、医師、看護師等の継続的な教育に貢献し、地域における医療・保健水準の向上及び家庭医などへき地医療に携わる人材を育成する。
- 3 生活習慣病の予防及び早期発見のための健診（検診）体制を確立する。
- 4 がん診療連携拠点病院及び肝疾患診療連携拠点病院として、三重県における医療水準の均てん化の実現に向け、指導的役割を果たすとともに、治験拠点病院として質の高い臨床研究・治験を推進し、高度で先進的な医療を安全に提供する。

## V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

### 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

#### (①キャンパス環境)

- 1 人と自然との調和・共生に配慮した地域社会に開かれたキャンパス環境を整備する。
- 2 環境先進大学としての社会的責任を果たすため、三重大学環境方針の下、有限資源の有効な利活用を図るとともに、エネルギー消費量の低減に向けた取組を推進する。

### 【分析結果とその根拠理由】

本学の基本的な目標、基本理念及び社会貢献の目的を達成すべく、中期目標において「社会との連携や社会貢献に関する目標」が示されており、その目標を達成するための具体的な措置として、中期計画及び年度計画が明確に定められている。さらに、教育・研究・診療等さまざまな分野においても中期目標・中期計画として地域貢献にかかる項目を定めている。これらの目的、中期目標、中期計画・年度計画は本学ホームページに掲載して公表するとともに、各種学内会議において教職員に周知を行っている。

以上のことから、大学の社会貢献の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画が定められている

とともに、これらの目的と計画が適切に公表・周知されていると判断する。

## 観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

### 【観点到に係る状況】

「教育と研究を通じて地域作りや地域発展に寄与するとともに、地域社会との双方向の連携を推進する」という本学の社会貢献の目的を実現するために、中期目標に地域貢献に係る目標が設定されており、その目標を達成するための措置は、中期計画及び年度計画のなかで具体化されている。これらの中期計画及び年度計画に基づき、教育・研究・診療等それぞれの分野において全学で地域貢献活動を行っている。

主な活動は、以下の通りである。

## I 社会との連携・社会貢献分野

### 1. 地域の知の支援活動等への取組みについて

- (1) 地域の社会人等を対象とした教育活動を行っており、文部科学省の認定のもとに教員免許状更新講習を実施しているほか（資料B-1-②-A）、市民向け公開講座（資料B-1-②-B）や授業を一般に開放する「市民開放授業」等を行っている（資料B-1-②-C、資料B-1-②-D）。
- (2) 平成24年度に、科学技術振興機構が実施する理数系教員（CST（コア・サイエンス・ティーチャー））養成拠点構築事業に採択され、本学と三重県教育委員会が連携し、理数系教員養成プログラムの開発・実施や、地域の理科教育における拠点の構築・活用などを通じた理科教育の中核を担う教員の養成を行っている（資料B-1-②-E）。

### 2. 地域への知的情報提供への取組みについて

本学の附属図書館は、「研究支援機能」、「学習支援機能」、「地域貢献機能」の3つの機能をサービスの3本柱に据え、その中の「地域貢献機能」として「学術資料の展示」「各種展示・シンポジウムの実施」「機関リポジトリ」に取り組んでいる（資料B-1-②-F）。また、県内の図書館や博物館との連携も推進しており、平成26年2月には、三重の自然と歴史・文化などの地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに寄与することを目的として、三重県総合博物館との間で相互協力協定を締結した（別添資料B-1-②-1）。

### 3. 地域の防災等に関する研究及び支援の取組みについて

- (1) 本学の位置する三重県は、南海トラフを震源とする東海・南海・東南海地震等による甚大な被害が懸念される地域性から、三重県地域で発生する自然災害に備え、地域圏の防災・減災活動の取組みの充実化や、地域の防災・減災活動を率先して行う人財を育成することを目的として、「みえ防災塾」（平成25年度までは「美し国おこし・三重さきもり塾」）等の防災人材育成事業を推進している（資料B-1-②-G）。
- (2) 平成25年4月より、社会連携研究センター（後述）内に地域圏防災・減災研究センターを設置し、三重地域圏の産学官民連携による防災・減災活動の推進体制を強化した（資料B-1-②-H、別添資料B-1-②-2）。さらに、平成26年4月には、地域防災に携わる人財の育成や研究成果の創出などについて、三重県と共同で取り組む全国初の組織として、「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」を設置し、三重地域圏の産学官民連携を充実させている（資料B-1-②-I、別添資料B-1-②-3）。

## II 教育分野

### 1. 地域の教育活動等への取組みについて

三重県教育委員会との間に連携協力に関する協定を結び、三重県内の学習意欲あふれる高校生が自発的に大学で勉強できる機会を積極的に提供することを目的として、全学的にさまざまな高大連携の取組みを行っている（別添資料B-1-②-4，資料B-1-②-J～資料B-1-②-L）。

## III 研究分野

### 1. 地域の研究活動等への取組みについて

- (1) 外部機関との連携・協力を深め、教育・研究の進展を図り、地域社会における産業、文化と福祉の向上に資することを目的として、社会連携研究センターを設置している（資料B-1-②-M）。
- (2) これまで蓄積してきた教育・研究資源の提供と地域活性化の促進を目的に、三重県内各地域との間に相互友好協力等に関する協定を締結している（資料B-1-②-N）。さらに、三重県内各地域での産学官連携活動を推進するために、四日市市、伊賀市、尾鷲市に拠点となるオフィスを設置している（資料B-1-②-O）。
- (3) 平成21年4月に、研究成果等の社会への還元を目的に、社会連携を大学院教育に取り入れた全国初の独立研究科として地域イノベーション学研究科を設置し、地方産業界が求める即戦力型人材の育成に取り組んでいる（資料B-1-②-P）。
- (4) 平成23年4月に、社会連携研究センター内に「地域戦略センター」を設置し、三重県内の地方自治体と連携して地域が抱える産業育成、地域振興、観光政策、環境政策等の諸問題に対する政策提言・提案等を行うことにより、積極的に地域貢献に取り組んでいる。これは、大学が蓄積する知の活用によって地域が抱える課題の解決策を提供する「総合シンクタンク」の役割を果たすことを目指している（資料B-1-②-Q）。
- (5) 平成20年度より、大学全体として地域貢献活動の創造及び推進を目的に、本学教員を代表者とする教育・研究に基づく自主的な活動を「三重大学地域貢献活動」として毎年公募を行っており、地域と連携して行う教員の活動に対して、本学の活動として認定するとともに、必要な経費を一部助成支援している（資料B-1-②-R）。

## IV 診療分野

### 1. 医療活動を通じた地域貢献の取組みについて

- (1) 本学は、平成22年6月に三重県より救命救急センターの指定を受け、病院前医療、3次救急医療、集中医療を行うなど、三重県内の救急医療の中心的役割を担っており、救急医療の質向上を図っている（資料B-1-②-S）。また、平成24年2月には、ドクターヘリの運用を開始し、救急現場から迅速かつ高度な医療活動を行うことにより尊い人命の救助につなげている（資料B-1-②-T）。
- (2) 本学は、医学部・附属病院が連携し、三重県内の地域医療を支援する活動を行っている。へき地・医師不足地域を含む県内各医療機関に指導医となる教員を配置し、継続的に当該医療機関の医師・看護師等の教育を行うことにより、地域における医療・保健水準の向上を図っている。また、これら地域医療の支援について、実際の診療などを通じ、医療保健体制に関する教育・研究を行い、最適な地域医療体制の確立を目指すことを目的として、三重県各地域に地域医療学講座を設置している（資料B-1-②-U）。さらに、

平成 25 年度には、文部科学省の「未来医療研究人材育成拠点形成事業」において「三重地域総合診療網の全国・世界発信」が採択され、さらなる地域医療活性化への基礎的教育研究システムの構築を進めている（資料B-1-②-V）。

## V 環境分野

### 1. 環境を通じた地域貢献の取組みについて

(1) 本学は、環境人財の育成に力を入れており、環境、経済、社会の総合的な発展を目指す持続発展教育(ESD)として、環境教育、防災教育、生物多様性教育、世界遺産や文化教育、国際理解教育などを行っている。平成 21 年度には、総合大学で全国初となるユネスコスクールに加盟し、ESD の推進拠点として、三重県、教育機関、地元企業、各種団体等と連携しながら、地域への環境教育の普及・拡大を図っている（別添資料B-1-②-5）。

また、平成 24 年度に、自主財源で「環境・情報科学館」を整備し、環境団体や企業、自治体等と連携して環境教育・研究等の情報発信や地域住民との交流を行うなど、環境先進大学として積極的な取組みを行っている（資料B-1-②-W）。

(2) 本学は、全国の国立大学では数少ない「海に近い大学」として、海岸（名称：町屋海岸）に隣接している。町屋海岸は、自然豊かな場であり、景観も素晴らしいことから、本学では、学生が中心となり環境 ISO 学生委員会を組織し、地域住民とともに年 5 回、ゴミ拾いなどの海岸美化活動を行っている（資料B-1-②-X）。また、当該活動と並んで、近隣の小学校の児童を対象に、環境問題等について学習する機会を設けるなど、環境に対する意識の向上を図っている（資料B-1-②-Y）。

○資料B-1-②-A 教員免許状更新講習 <https://www.mie-u.ac.jp/certificate/>

○資料B-1-②-B 平成25年度市民向け公開講座

# 平成25年度 三重大学市民向け講座 回覧

## 人文学部 伊賀連携フィールド2013年度 「忍者・忍術学講座:忍術書を読み解く」

後援 / 三重大学伊賀連携フィールド

●会場 / ハイピア伊賀3階 上野商工会議所 コミュニティ情報プラザホール  
●参加料 / 無料 ●定員 / 自由参加 ●対象者 / 市民一般

### ① 義盛百首の世界

7月20日(土) / 10:30~12:00  
◎講師◎ 本廣 陽子(人文学部・准教授)

### ② 忍術と妖術

8月17日(土) / 10:30~12:00  
◎講師◎ 吉丸 雄哉(人文学部・准教授)

### ③ 忍術に見る修験道の影響

9月21日(土) / 10:30~12:00  
◎講師◎ 山田 雄司(人文学部・教授)

問い合わせ先 人文学部チーム総務担当 ☎059-231-9194 [E-mail]hum-somu@ab.mie-u.ac.jp

## はてな?「発見塾」

後援 / 三重大学

●会場 / ①②③⑤ 津リージョンプラザ2階 健康教室 ④ 津市芸濃総合庁舎2階 芸濃コミュニティセンター  
●参加料 / 無料 ●定員 / 自由参加 ●対象者 / 市民一般

### ① これであなたも蝶博士

7月27日(土) / 13:30~15:00 ◎講師◎ 宮崎 照雄(生物資源学部・名誉教授)

### ④ 高血圧を予防・治療して、延ばそう健康寿命

2014年1月25日(土) / 13:30~15:00 ◎講師◎ 伊藤 正明(医学部附属病院・教授)

### ② 千歳山・半泥子ワールドへようこそ

9月28日(土) / 13:30~15:00 ◎講師◎ 菅原 洋一(工学研究科・教授)

### ⑤ 健康寿命を延ばすための食生活とは?

2014年3月22日(土) / 13:30~15:00 ◎講師◎ 矢野 裕(医学部・准教授)

### ③ ハゲはなぜ悩ましいのか 一劣等感の社会史

11月30日(土) / 13:30~15:00 ◎講師◎ 森 正人(人文学部・准教授)

問い合わせ先 附属図書館 ☎059-231-9032 [E-mail]lib-kikaku@ab.mie-u.ac.jp  
URL http://www.lib.mie-u.ac.jp/

## 第16回「リフレッシュ理科教室」 「磁石でまわる!はねる!とぶ!楽しい工作」

主催 / 三重大学CSTサポート室、公益社団法人応用物理学会、津市教育委員会  
後援 / 三重県教育委員会、朝日新聞社、伊勢新聞社、NHK津放送局、株式会社ZTV、中日新聞社、毎日新聞社、三重テレビ放送、読売新聞社、その他関連学会

8月23日(金) / 13:00~17:00

24日(土) / ①10:00~11:30、②13:00~14:30  
③15:00~16:30

◎講師◎ 竹尾 隆(工学部・教授)、三宅 秀人(工学部・准教授)、佐藤 英樹(工学部・准教授)、松井 龍ノ介(工学部・准教授)、藤原 裕司(工学部・准教授)

◎申込方法◎ E-mailまたはホームページ ◎申込期間◎ 7月1日~8月1日

申込み・問い合わせ先 藤原 裕司(工学研究科・准教授) [E-mail]refresh@ne.phen.mie-u.ac.jp

URL http://www.ne.phen.mie-u.ac.jp/user/RefreshRika/

携帯電話でもご覧いただけます。→



QRコード

## 第6回 久留倍官衙遺跡講演会

共催 / 三重大学考古学研究室、久留倍官衙遺跡を考える会、三重大学人文学部伊勢湾・熊野地域研究センター

●会場 / あさけプラザ(四日市市富田) ●参加料 / 無料 ●定員 / 300名 ●対象者 / 市民一般

10月26日(土) / 13:00~17:00

問い合わせ先 三重大学考古学研究室 山中 章 ☎059-231-9148 [E-mail]yaa1948@gmail.com

### ① 久留倍官衙遺跡の立体復元

◎講師◎ 箱崎 和久(奈良文化財研究所・遺構研究室長)

### ③ 長岡京のCG復元

◎講師◎ 河角 龍典(立命館大学・准教授)

### ② 鈴鹿関のCG復元

◎講師◎ 関口 敦仁(愛知県立芸術大学・教授)

### ④ 海外遺跡復元事情

◎講師◎ 山中 章(三重大学・名誉教授)

## 壬申の乱ウォーク

共催 / 三重大学考古学研究室、久留倍官衙遺跡を考える会、三重大学人文学部伊勢湾・熊野地域研究センター

① ●会場 / 京都府乙訓郡大山崎町周辺 ●参加料 / バス代4000円  
●定員 / 100名 ●対象者 / 市民一般

② ●会場 / 津市周辺 ●参加料 / 無料  
●定員 / 自由参加 ●対象者 / 市民一般

### ① 第30回 大友皇子自害の地山崎を歩く

11月9日(土) / 8:00~17:00 ◎講師◎ 山中 章(人文学部・名誉教授)  
◎申込方法◎ 電話、メール

### ② 第31回 聖武天皇行幸地・河口頓宮を訪ねて

2014年2月8日(土) / 9:00~13:00 ◎講師◎ 山中 章(人文学部・名誉教授)

申込み・問い合わせ先 三重大学考古学研究室 山中 章 ☎059-231-9148 [E-mail]yaa1948@gmail.com

## 教育学部理科教育 青少年のための科学の祭典2013

主催 / 「青少年のための科学の祭典」三重大学大会実行委員会、日本科学技術振興財団

●会場 / 三重大学講堂 ●参加料 / 無料 ●定員 / 自由参加 ●対象者 / 児童、保護者、市民一般

11月16日(土) / 13:00~17:00、11月17日(日) / 10:00~16:00

問い合わせ先 三重大学教育学部 後藤 太一郎 ☎059-231-9260 URL http://sci.edu.mie-u.ac.jp/

◎出展者◎ 三重大学教員・学生、中学校・高校教員、科学ボランティア 他



# 三重大学

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577  
TEL 059-232-1211(代) http://www.mie-u.ac.jp/

公開講座についての最新情報はこちら!  
http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/open.html

## 平成25年度 学部主催公開講座

### 人文学部「公開ゼミ」

開催期間 9月～12月

- ①「宝島」入門  
9月10日(DK)、17日(DK)、24日(DK) / 10:30～12:00  
◎講師◎ 赤岩 隆(人文学部・教授)
- ②日本の社会保障を考える～医療、介護を中心に～  
9月11日(DK)、18日(DK)、25日(DK) / 19:00～20:30  
◎講師◎ 和田 康紀(人文学部・准教授)
- ③ことばの意味とコミュニケーション  
10月1日(DK)、8日(DK)、15日(DK) / 10:30～12:00  
◎講師◎ 澤田 治(人文学部・准教授)、吉田 悦子(人文学部・教授)
- ④英文法を科学する!?  
10月1日(DK)、8日(DK)、15日(DK) / 16:20～17:50  
◎講師◎ 杉崎 隆司(人文学部・教授)
- ⑤フェニキア都市からローマ都市へ  
～地中海沿岸部に展開した古代都市文明を探る～  
10月23日(DK)、30日(DK)、11月6日(DK) / 14:40～16:10  
◎講師◎ 山中 肇(人文学部・名誉教授)
- ⑥ 欲待について考える  
11月5日(DK)、12日(DK)、19日(DK) / 19:00～20:30  
◎講師◎ 石井 真夫(人文学部・名誉教授)、立川 隆仁(人文学部・准教授)、北川 真由(人文学部・准教授)
- ⑦文化の違いとコミュニケーション  
11月22日(金)、29日(金)、12月6日(金) / 13:00～14:30  
◎講師◎ 藤本 久明(人文学部・准教授)
- ⑧災害時の国、自治体、住民・ボランティアの役割と法  
11月25日(月)、12月2日(月)、9日(月) / 19:00～20:30  
◎講師◎ 前田 定孝(人文学部・准教授)

- 会場 / 三重大学人文学部 ● 受講料 / 無料 ● 定員 / 各20名 ● 受講対象者 / 市民一般
- 申込期間 / 8月初旬～各開講日の5日前まで (定員まで先着順に受け付けます。)
- 申込方法 / 電話、FAX、E-mail

申込み・問い合わせ先 人文学部チーム総務担当

☎059-231-9196, 059-231-9195 FAX.059-231-9198 [E-mail] hum-somu@ab.mie-u.ac.jp URL→ <http://www.human.mie-u.ac.jp/chiki/kouza/>

### 医学部「公開講座」

①「同じ地域住民として外国人との共生を」、他

10月開催予定

◎講師◎ 榎下 博世(医学部・教授) 他

※全3講座を予定。詳細は8月下旬頃に右記URLに掲載予定です。

- 会場 / 三重大学医学部先端医科学教育研究棟
- 受講料・定員 / 無料・100名 ● 受講対象者 / 市民一般

医学部市民公開講座情報  
<http://www.medic.mie-u.ac.jp/event/opensemi.php>

問い合わせ先 医学系研究科チーム総務グループ ☎059-231-5428 FAX.059-232-7498 [E-mail] med-soumu@mo.medic.mie-u.ac.jp

### 生物資源学部「公開講座」

①親子(孫)で120%科学を楽しむ 仮説実験講座「銀ピカ・金ピカのひ・み・つ」

8月10日(土)、11日(日)(2日間連続開催) / 10:00～15:00

◎講師◎ 木村 妙子(生物資源学部・准教授)

- 会場 / 三重大学生物資源学部
- 受講料・定員 / 1家族5,500円(実験BOX含む)・60名
- 受講対象者 / 小学生～大人
- 申込期間 / ～7月19日[金] (定員になり次第締切)
- 申込方法 / E-mailまたはFAX (振込は申込受付後)

問い合わせ先 生物資源学研究科チーム総務担当 ☎059-231-9673 FAX.059-231-9634 [E-mail] bio-somu@ab.mie-u.ac.jp

### 平成25年度 後期三重大学市民開放授業

※開催期間 / 2013年後期の講義期間

三重大学では、本学が開講している正規の授業を市民等の皆様に学生とともに受講していただく三重大学市民開放授業を開講しております。募集要項や申込方法等詳しくはこちらをご覧ください。

→ <http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/extension.html>

- 募集定員 / 1科目2名～20名(授業科目により異なります。)
- 受講料 / 1科目9,400円(一部の科目13,500円)
- 受講資格 / ありません。
- 受講申込受付期間 / 7月29日[月]～9月9日[月]

ただし、受講条件や授業の概要を確認し、お申し込みください。

問い合わせ先 学務部教務チーム ☎059-231-5520 または、各学部学務担当(募集要項参照)

人文学部	ドイツの文学D、ドイツの文学F、中国語作文B、中国語会話B、ドイツの言語D、自然環境論D、日本考古学特講D
教育学部	メディアリテラシーと情報表現II、現代社会の課題と国民的教養、教育社会学、教育社会学演習、教育と福祉
工学部	量子力学I(電気電子工学科)、電磁気学II及び演習、量子力学II(物理工学科)、人工知能
生物資源学部	資源動物学、環境経済学、流域保全学、食料生産システム学、景観設計論、植物病害制御学
国際交流センター	基礎生活日本語1B、基礎生活日本語2B、中級I文法・読解B、中級II文法・読解B、地域研究:ベトナムB、プロテストソング論
共通教育センター	比較政治文化、建築・技術・人間・防災論、日本史IV、ドイツ語I基礎(後)、ドイツ語I演習(後)、ドイツ語II講義、ドイツ語II演習、英語ITOEIC受験対策

### 生物資源学部特別支援プログラム

※開催期間 / 2013年後期の講義期間

農学関連特別プログラム・森林関連特別プログラム・水産関連特別プログラムを開講しています。募集要項や申込方法等詳しくはこちらをご覧ください。

→ <http://www.bio.mie-u.ac.jp/pdf/tokubetu2013.pdf>

- 募集定員 / 各プログラム若干名
- 受講料 / 入学科: 28,200円 授業料: 1科目9,400円、後期コース56,400円
- 受講資格 / 学校教育法第90条第1項の規程により大学に入学することができる者で、教授会が当該プログラムを履修するに十分な学力があると認められた者。
- 受講申込受付期間 / 7月29日[月]～8月2日[金]

問い合わせ先 生物資源学部チーム 学務担当 ☎059-231-9735

農学関連特別プログラム(後期コース)	植物遺伝育種学、野菜環境生理学、食用作物学、昆虫学、植物病原微生物学、生理生態機能調節実習および生物資源有効利用実習(後期コース)
森林関連特別プログラム(後期コース)	樹木生理学、森林・緑環境評価学、森林航測学、治水防砂学、森林・緑環境計画学、森林資源生物学実験
水産関連特別プログラム(後期コース)	海事概論、水産食品衛生学、海洋個体群動態学、水族増殖生態学、資源生物学、海洋動物学実験

三重大学のテレビ番組が始まるよ

**MTU**  
三重テレビ放送  
第1チャンネル

- 毎月第4火曜日  
①12:00～12:29  
②17:00～17:29(再)
- 毎月第4水曜日  
③7:00～7:29(再)  
※再放送は第2チャンネル

きらめく群像～三重大学の財～  
三重大学の教員を中心に大学の「今」をご紹介します。

(出典: 本学ウェブサイト <http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/pdf/2013siminkouza.pdf>)

○資料B-1-②-C 平成26年度市民開放授業科目等一覧

学期	学部等	授業科目	曜日	募集定員	受講料	受講条件(損保等加入等)
前期	人文学部	ドイツの言語A	月	3	9,400円	ドイツ語の基礎的な文法を習得していること
		ドイツの文学G	月	5	9,400円	なし
		自然環境論A	水	5	9,400円	なし
		ドイツ文学演習E	木	5	9,400円	中級程度のドイツ語読解力のある方
		日本考古学特講E	木	10	9,400円	なし
	教育学部	学校教育研究演習I	月	3	9,400円	なし
		被服学概論	月	3	9,400円	損保等加入
		博物館・情報メディア論	木	20	9,400円	なし
	工学研究科	量子力学Ⅱ(電気電子工学科)	月	10	9,400円	なし
		量子力学Ⅰ(物理工学科)	月	若干名	9,400円	なし
	生物資源学 研究科	微生物学	水	2	9,400円	なし
		森林有機化学	木	2	9,400円	なし
		分子遺伝学	火	2	9,400円	なし
		海洋食糧機能化学	火	2	9,400円	なし
		水族生理学	水	2	9,400円	なし
	国際交流セ ンター	基礎Ⅰ生活日本語1A(きそⅠせい かつにほんご1A)	木	2	9,400円	はじめてにほんごをばんきょうするひと むけです。にほんごレベルはんていしけ んをうけなければなりません。
		基礎Ⅱ生活日本語3A (きそⅡせいかつにほんご3A)	月	2	9,400円	にほんごしょきゅうをもういちどばんき ょうしたいひとむけのじゅぎょうです。 にほんごレベルはんていしけんをうけな ければなりません。
		中級Ⅰ文法・読解A (ちゅうきゅうⅠ ぶんぽう・どっかいA)	水	2	9,400円	中級レベルを目指したい人向け。にほん ごレベルはんていしけんをうけなければ なりません。
		中級Ⅱ文法・読解A	火	2	9,400円	日本語能力試験1,2級を目指す人向け の授業です。日本語レベル判定試験を受 けなければなりません。
	共通教育セ ンター	志摩の海女文化	月	20	9,400円	なし
		東洋史Ⅱ	水	5	9,400円	なし
		急病の観察と判断	水	10	9,400円	なし
		日本史Ⅱ	木	20	9,400円	なし
		化学の話題から	木	10	9,400円	なし
文化の意義を考え直す		金	10	9,400円	なし	
ドイツ語Ⅰ基礎(前)		火	5	9,400円	なし	
ドイツ語Ⅰ演習(前)		木	5	9,400円	なし	
ドイツ語Ⅱ講読		月	5	9,400円	ドイツ語文法の基礎を理解していること	
ドイツ語Ⅱ演習		木	5	9,400円	初級文法を修得していること	
英語ⅡTOEIC受験対策		火	10	9,400円	なし	
英語ⅡTOEIC受験対策	木	10	9,400円	なし		
後期	人文学部	ドイツの言語B	月	3	9,400円	ドイツ語の基礎的な文法を習得していること
		ドイツ文学論B	月	5	9,400円	なし
		自然環境論B	水	3	9,400円	なし

		日本考古学特講F	木	10	9,400円	なし
教育学部		現代社会の課題と国民的教養	火	10	9,400円	なし
		教育社会学	火	3	9,400円	なし
		教育社会学演習	月	3	9,400円	なし
		被服構成学	水	3	9,400円	損保等加入
		メディアリテラシーと情報表現II	月	20	9,400円	なし
工学研究科		量子力学(電気電子工学科)	月	10	9,400円	なし
		電磁気学II及び演習	火, 水,	10	13,500円	なし
		技術者倫理	木	3	9,400円	三重大学のMoodleを使用できること
		量子力学II(物理工学科)	月	若干名	9,400円	なし
生物資源学研 究科		資源動物学	月	2	9,400円	なし
		環境経済学	月	2	9,400円	なし
		流域保全学	水	2	9,400円	なし
		食料生産システム学	水	2	9,400円	なし
		景観設計論	月	2	9,400円	なし
		果樹生育生理学	火	2	9,400円	なし
国際交流セン ター		基礎I生活日本語1B(きそIせい かつにほんご1B)	木	2	9,400円	はじめてにほんごをべんきょうするひと むけです。にほんごレベルはんていしけん をうけなければなりません。
		基礎II生活日本語3B (きそIIせいかつにほんご3B)	月	2	9,400円	にほんごしょきょうをもういちどべんき ょうしたいひとむけのじゅぎょうです。 にほんごレベルはんていしけんをうけな ければなりません。
		中級I文法・読解B	水	2	9,400円	中級レベルを目指したい人向け。にほん ごレベルはんていしけんをうけなければ なりません。
		中級II文法・読解B	火	2	9,400円	日本語能力試験1, 2級を目指す人向け の授業です。日本語レベル判定試験を受 けなければなりません。
共通教育セン ター		比較政治文化	月	10	9,400円	なし
		建築・技術・人間-防災論	月	10	9,400円	なし
		東洋史II	水	5	9,400円	なし
		日本史IV	木	20	9,400円	なし
		知財学入門	金	10	9,400円	なし
		ドイツ語I基礎(後)	火	5	9,400円	なし
		ドイツ語I演習(後)	木	5	9,400円	なし
		ドイツ語II講読	月	5	9,400円	ドイツ語文法の基礎を理解していること
		ドイツ語II演習	木	5	9,400円	初級文法を修得していること
		英語II TOE I C受験対策	火	10	9,400円	なし
	英語II TOE I C受験対策	木	10	9,400円	なし	

(出典: 本学ウェブサイト (<http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/extension.html>) を基に作成)

○資料B-1-②-D 平成 25 年度みえアカデミックセミナー



(出典：本学ウェブサイト：<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2014/03/2013-9.html>)

○資料B-1-②-E 理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー：CST）養成拠点構築事業

<http://cst.pj.mie-u.ac.jp/>

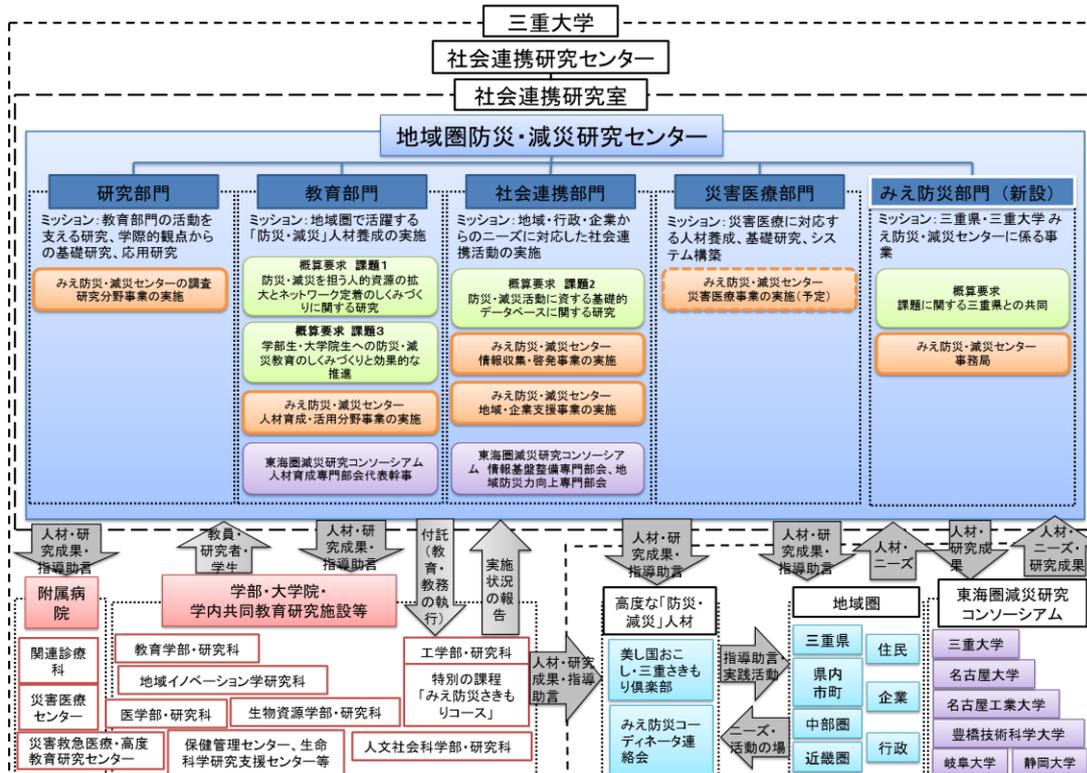
○資料B-1-②-F 三重大学附属図書館概要（2013）

[http://www.lib.mie-u.ac.jp/about\\_library/outline/outline2013.pdf](http://www.lib.mie-u.ac.jp/about_library/outline/outline2013.pdf)

○資料B-1-②-G みえ防災塾（旧「美し国おこし・三重さきもり塾」）

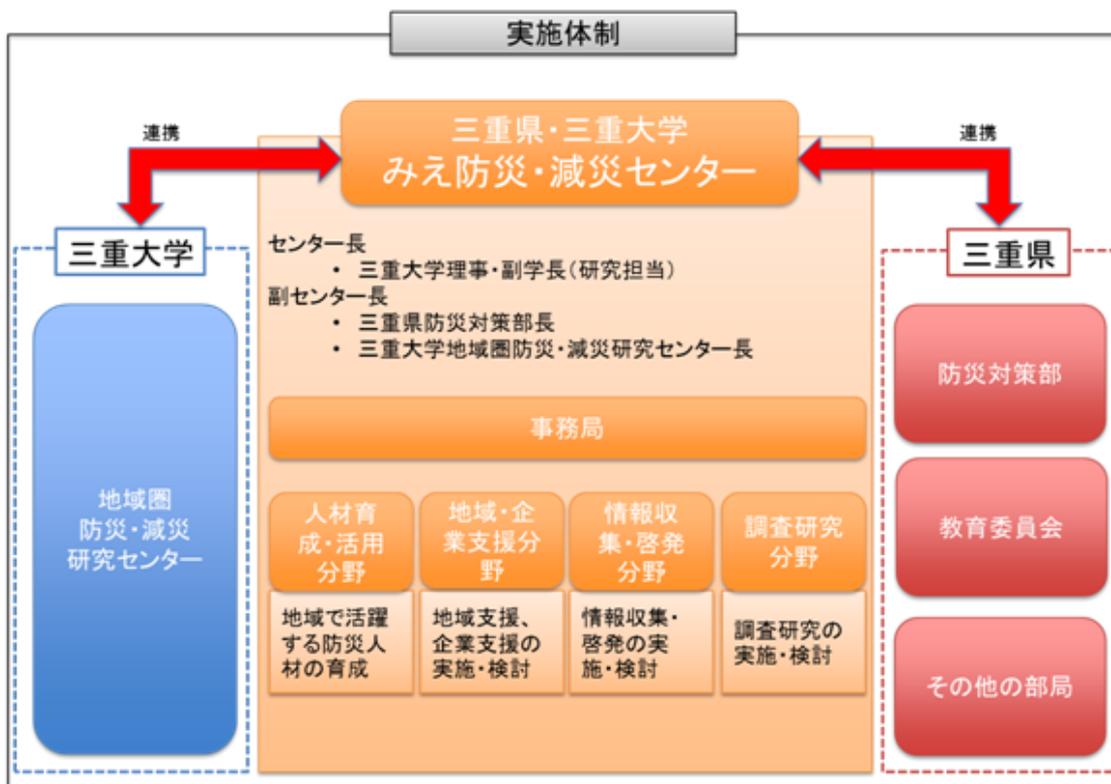
<http://www.sakimori.eng.mie-u.ac.jp/>

○資料B-1-②-H 地域圏防災・減災研究センター



(出典：地域圏防災・減災センター作成資料)

○資料B-1-②- I 三重県・三重大学 みえ防災・減災研究センター



(出典：みえ防災・減災センター作成資料)

○資料B-1-②- J 高大連携の取組みについて

事業名	取組み内容
サマーセミナー	夏休み期間中、高校生を対象とした授業を実施している。
東紀州講座	木本・尾鷲高校生を対象とした公開講座。三重大学と両校の密接な連携のもと三重大学の教育研究資源を両校生へ開放し、学習意欲あふれる進学希望者をより多く確保することを目的としている。両校は本学から遠いため、教員が出向いて講座を開いている。
高校生向け公開講座	毎週9・10限(16時20分～17時50分)に共通教育科目を高校生向け公開授業として開講している。(下記：資料B-1-②-K)
スーパーサイエンス・ハイスクール(SSH)	文部科学省より、科学技術、理科・数学教育を重点的に行う「スーパーサイエンス・ハイスクール」として指定された高等学校に対し、当該事業の取組みに協力している。
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)	児童生徒の科学技術、理科・数学に対する興味・関心と知的探求心等を育成することを目的として、学校等と大学・科学館等との連携により、科学技術、理科・数学に関する観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な学習活動に対する支援を行っている。
出前授業	本学教員が直接、三重県内の中学校や高等学校に出向き、専門とする教育・研究内容等についてわかりやすく説明する出張講義を行っている。人文学部、工学部、生物資源学部において実施している。(下記：資料B-1-②-L)

(出典：教務チーム提供資料より作成)

○資料B-1-②-K 平成25年度高大連携授業科目一覧

学期	曜日	授業科目名	分野	授業のテーマ	認定単位数
前期	火	教養社会学Ⅱ	社会	古典映画にみる人間のあり方	2
	火	臨床医学の最近の話題	自然	臨床医学各領域のトピックスを分かりやすく解説する	2
	木	演劇入門	人文	演劇に親しむ	2
	木	化学の話題から	自然	化学という学問の特徴を理解する	2
	木	癌治療の最前線	社会, 自然	一言で「癌」といっても、その発生部位により、病態、治療法、治療成績が著しく異なることを理解し、さらに癌治療法の現状と将来について知識を深めることを目標とする	2
	木	環境と微生物	自然	環境、微生物、富栄養化、バイオマス、プロバイオティックス、消化管微生物、地球温暖化、環境修復、環境保全	2
	金	自然環境概論	自然	自然環境において森林が果たす役割	2
	金	環境と生物	自然	森林、木材、居住環境、木造建築	2
	金	数学の話題からⅢ	自然	数学のいくつかの分野からの話題	2
後期	月	森林環境とその保全	自然	森林生態系、森林の環境、森林の機能、森林資源調査、世界の森林資源、持続可能な森林経営	2
	月	建築・技術・人間—防災論	社会, 自然	自然債学、建築防災、地域防災	2
	月	社会連携実践Ⅱ	社会	地域の課題を知り解決策を考える	2
	火	西洋史Ⅰ	人文	西洋史 アメリカ社会 近代化	2
	火	癌の最新の診断と治療	自然	さまざまな癌の診断と治療法のトピックスを分かりやすく解説する	2
	水	Protest Song Studies (プロテストソング論)	人文, 社会	プロテストソング、反戦、反核兵器、反公害、世界、市民	2
	木	国際保健と地域医療	社会	国際医療協力、公衆衛生、外国の医療、地域医療、へき地医療	2
	木	共通セミナーF	人文	新宗教について考える	2
	木	共通セミナーF	自然	先端再生医療工学を学ぶ	2
	金	知財学入門	社会	知財マインドの醸成	2

(出典：本学ウェブサイト (<http://www.mie-u.ac.jp/koudai/about/12open.html>) を基に作成)

○資料B-1-②-L 出前授業

<http://www.human.mie-u.ac.jp/chiiki/demae/> (人文学部)

[http://www.eng.mie-u.ac.jp/community/for-highschools/h26\\_demae\\_list.pdf](http://www.eng.mie-u.ac.jp/community/for-highschools/h26_demae_list.pdf)  
(工学研究科)

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/about/service/outside/26demaemenu.pdf>  
(生物資源学研究科)

○資料B-1-②-M 社会連携研究センター <http://www.crc.mie-u.ac.jp/>

○資料B-1-②-N 三重県地域との相互友好協力等に関する協定一覧 (平成26年4月1日現在)

協定名・協定締結先等	締結日
①三重県との協定	
海の博物館	平成16年3月18日

三重県との防災協定	平成 17 年 12 月 21 日
三重県との災害対策相互協力細目協定	平成 19 年 3 月 20 日
三重県科学技術振興センター	平成 19 年 3 月 23 日
三重県との「新県立博物館」にかかるとの連携協定	平成 21 年 3 月 16 日
三重県との「医療」分野における連携に関する協定	平成 22 年 1 月 29 日
三重県（防災危機管理部）	平成 22 年 5 月 26 日
三重県との実演芸術の振興等にかかるとの連携に関する協定	平成 25 年 9 月 12 日
三重県総合博物館	平成 26 年 2 月 26 日
三重県との『みえ防災・減災センター』設置に関する協定	平成 26 年 4 月 1 日
②三重県内市町村との協定	
尾鷲市	平成 14 年 12 月 2 日
四日市市	平成 15 年 10 月 7 日
亀山市	平成 16 年 1 月 27 日
鳥羽市	平成 16 年 3 月 22 日
朝日町	平成 16 年 6 月 9 日
伊賀市	平成 18 年 1 月 23 日
南伊勢町	平成 18 年 5 月 12 日
津市	平成 21 年 2 月 20 日
志摩市	平成 21 年 7 月 6 日
鈴鹿市	平成 22 年 6 月 30 日
伊勢市	平成 23 年 1 月 27 日
桑名市	平成 25 年 7 月 1 日
松阪市	平成 25 年 8 月 29 日

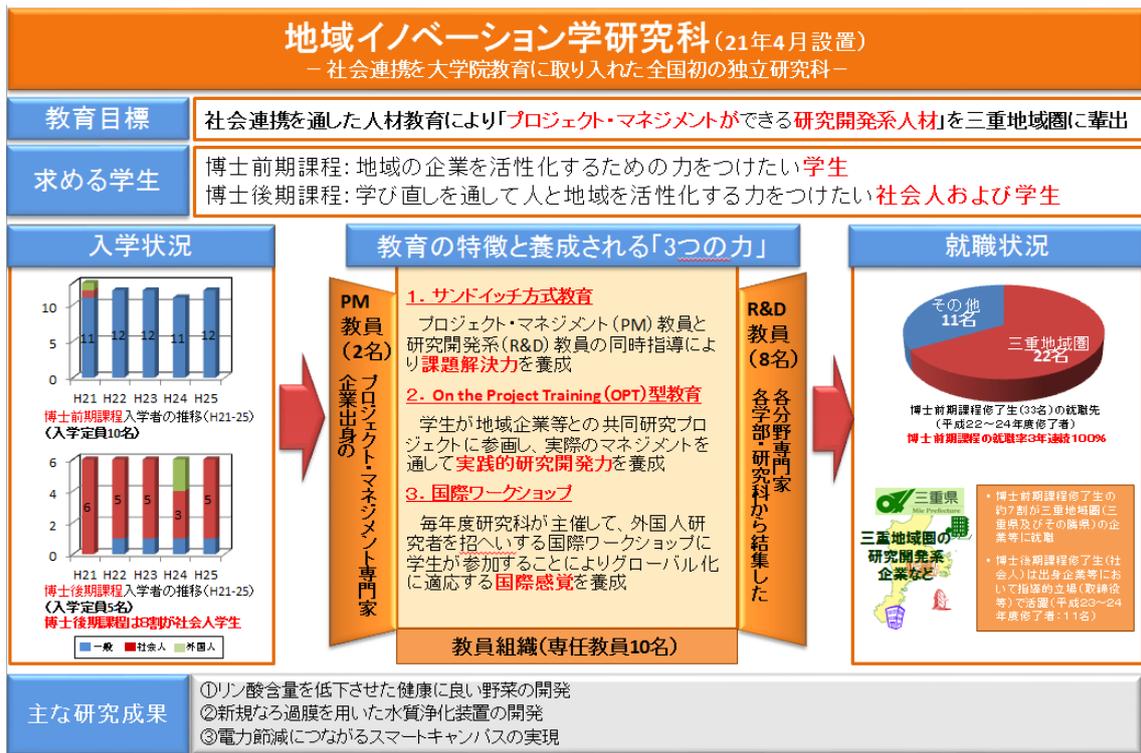
（出典：総務チーム提供資料を基に作成）

○資料 B-1-②-O 三重県内各地域の産学官連携活動拠点

所在地	名称	設置年度	設置目的等
四日市市	四日市フロント	平成 15 年度	三重県北勢地域での産学官連携活動を推進し、地域企業や市民と一層密着し活動する拠点として設置。
伊賀市	伊賀研究拠点	平成 20 年度	本学の教育・研究の成果をもとに、伊賀地域を中心に、地方公共団体、各種団体及び民間企業等と連携し、文化、教育、学術、経済及び社会の進展を図ることを目的に設置。
	伊賀連携フィールド	平成 24 年度	上野商工会議所及び伊賀市と連携し、教育・文化振興・研究の推進を図るとともに、地域振興上の諸課題等に適切に対応することにより伊賀地域の充実・発展に貢献することを目的に設置。
尾鷲市	三重大学連携室	平成 23 年度	海洋深層水の利活用や熊野古道の調査研究等、本学が尾鷲市とともに実施している事業をさらに円滑に実施するために設置。本学教職員が会議や研究の場として利用するほか、尾鷲市内の事業所、団体、市民からの技術相談の場としても活用している。

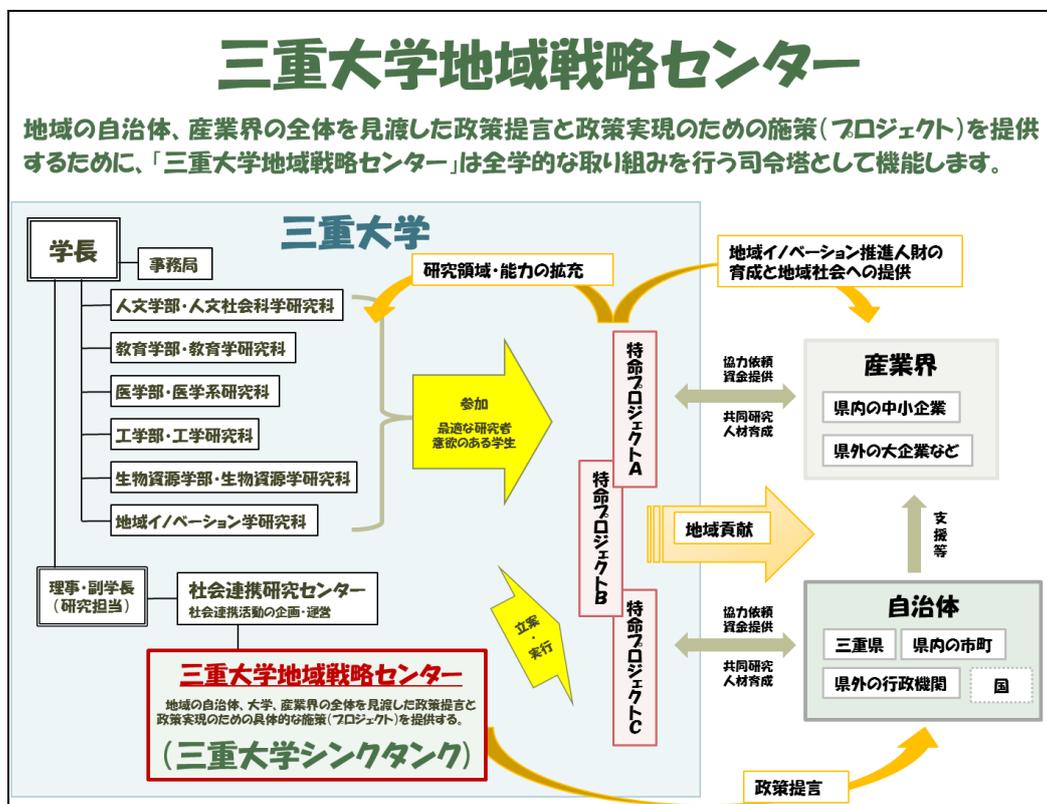
（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

○資料B-1-②-P 三重大学大学院地域イノベーション学研究科概要



(出典：地域イノベーション学研究科作成資料)

○資料B-1-②-Q 地域戦略センター <http://rasc-mie.jp/>



(出典：地域戦略センター作成資料)

## ○資料B-1-②-R 平成25年度三重大学地域貢献活動一覧

部局等名	地域貢献活動の内容
人文学部	大学・市民連携による持続的地域文化運動の構築～奥熊野山村古文書の調査と活用～
	「多文化共生を支援するワークプレイスの課題を探る:接触場面における情報共有と リスク回避のためのコミュニケーション行動調査」
	伊賀における「忍者」文化に着目した地域活性化の取り組み
	伊賀市における中心市街地活性化の取り組み
	遊休農地を活用した体験農園の開設による食育及び産消連携の推進
	津市における芸術文化振興活動の拠点と街づくり
教育学部	第18回ジュニアアスリートフェスティバル ～小学生の「走る」「跳ぶ」「投げる」機会の創出～
	「世界遺産・熊野古道」の保全と次代への継承
	社会的な結びつきを育むエクササイズ・プログラムの普及
	三重の産業を組み合わせた複合商品の開発と知財教育
	津市における健康づくり活動推進（特に運動面からの活動支援）
医学部・医学系研究科	精神に障がいを抱えながら子育てする親と子どもへの支援
	産業廃棄物処理場が点在する並びに居住地域での牧場経営が開始された地域の環境調査及び住民の健康調査と健康教育活動
	ワールドカフェ方式を用いた、地域を志向する医学生を含む住民を巻き込んだ医療・保健・福祉分野でのまちづくり体制の構築
工学研究科	風力発電を題材とした小中学生のための環境体験学習
	光技術による地域産業の活性化
	科学工作教室を通じた県内小中学校教員に対する理科教育啓発活動
生物資源学研究科	三重にツルをよぼうプロジェクト（スタートアップ）
	地域の親子を対象とした科学講座《親子(孫)でたのしむ仮説実験講座》の企画と実施
附属病院	三重県内の医療機関におけるアンチバイオグラムの作成
社会連携研究センター(伊賀研究拠点)	理科教育振興のための出前授業の実践とそれに伴う教材製作(2年次)
社会連携研究センター(地域圏防災・減災研究センター)	地域内コミュニティの「共助」としての「災害時要援護者とその支援者」の活動支援

(出典: 本学ウェブサイト (<http://www.mie-u.ac.jp/kouken/>) を基に作成)

## ○資料B-1-②-S 救命救急センター

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/kyuukyuu/saito/homu.html>

○資料B-1-②-T ドクターヘリ運航状況

### ドクターヘリについて (H24.2.1～運航開始)

H26.4.5



ドクターヘリ要請から傷病者との合流までの流れ



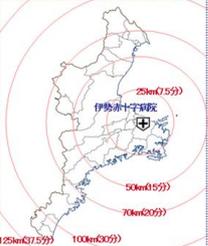


平成24年度総出動件数: 288件(本院: 159件、伊勢赤十字病院: 129件) (前年度比) 全体94件増  
 平成25年度総出動件数: 382件(本院: 188件、伊勢赤十字病院: 194件)

■ドクターヘリの運行範囲  
 三重県ドクターヘリは、三重大学医学部附属病院と伊勢赤十字病院が2ヶ月交代(※)で運航しますが、いずれの病院からも、県内各地へ概ね35分以内に到着することが可能です。

ドクターヘリの運航の分担

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
三重大学附属病院			◎	◎			◎	◎			◎	◎
伊勢赤十字病院	◎	◎			◎	◎			◎	◎		

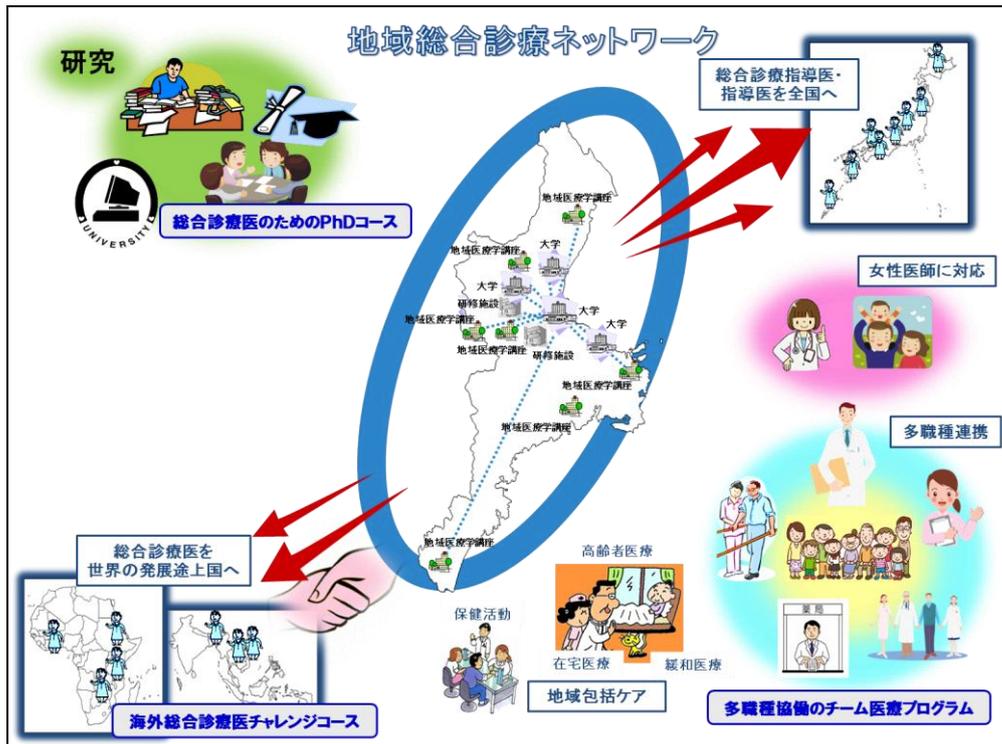
(出典：附属病院作成資料)

○資料B-1-②-U 地域医療学講座一覧 (平成26年4月1日現在)

講座名	相手先等	設置期間 (更新あり)
亀山地域医療学講座	亀山市からの寄附により設置	平成23年6月～29年5月
伊賀地域医療学講座	伊賀市・名張市からの寄附により設置	平成24年4月～28年3月
津地域医療学講座	津市からの寄附により設置	平成24年9月～28年3月
県南部地域医療学講座	三重県からの寄附により設置	平成26年1月～28年3月
循環器内科地域連携学講座	医療法人永井病院 (三重県津市) からの寄附により設置	平成26年2月～28年3月

(出典：附属病院提供資料を基に作成)

○資料B-1-②-V 未来医療研究人材育成拠点形成事業 <http://www.derfcm-mie-u.info/>



(出典：附属病院作成資料)

○資料B-1-②-W 環境情報科学館について <http://www.gecer.mie-u.ac.jp/topics/42meipl.html>



(出典：広報用撮影写真)

## ○資料B-1-②-X 町屋海岸清掃活動について

三重大学 | 環境ISO学生委員会

三重大学 サイトマップ お問い合わせ サイト利用規程

ホーム 当委員会について 学内環境活動 地域貢献活動 国際環境活動 広報活動 プロジェクト

ホーム > 地域貢献活動 > 海岸清掃

## 海岸清掃

### 活動内容

本学に隣接する町屋海岸は不法投棄問題を抱えています。そこで、環境ISO学生委員会では地域住民によって構成されたNPO法人町屋百人衆の方々と「憲定で走れる町屋海岸」をテーマに、年5回、ゴミ拾いなどの海岸美化活動を行っています。

また、環境ISO学生委員会では、**町屋海岸フェスティバル**の構築および運用を目標とし、町屋海岸での活動を行っています。

2012年度、2013年度は、トヨタ自動車株式会社水がテーマにした自然環境を保護・保全する地域社会貢献活動を支援する取り組みである「AQUA SOCIAL FES!!」の一環としても行われました。その際、環境ISO学生委員会が中心となり、町屋海岸の植生観察会を行いました。海浜植物の特性を紹介したり希少植物の観察を行ったりすることで、参加者とともに海岸の生物多様性について考えました。



(出典；本学ウェブサイト<http://www.gecer.mie-u.ac.jp/student/local/clean.html>)

## ○資料B-1-②-Y 近隣小学校児童への環境教育の取組み

三重大学 | 環境ISO学生委員会

三重大学 サイトマップ お問い合わせ サイト利用規程

ホーム 当委員会について 学内環境活動 地域貢献活動 国際環境活動 広報活動 プロジェクト

ホーム > 地域貢献活動 > 環境教育

## 環境教育

### 活動の経緯

町屋海岸は、三重大学と北立減小学校にとって最も身近で関係の深い地域環境です。その町屋海岸は不法投棄の問題を抱えており、2ヶ月に1度の清掃活動が続けられていますが、いまだ解決の目途が立ちません。その一方で、三重県準絶滅危惧種のハマニガナを観察することができるなど自然豊かな場所でもあります。これら町屋海岸の抱える問題や興味深い植物について、児童と共に考えていき、お互い環境に対する意識を高めていきます。

### 2013年度の活動内容




今年度は3R(リデュース・リユース・リサイクル)、自然エネルギーという新しいテーマに挑み、計4回の環境学習を実施しました。

(出典；本学ウェブサイト<http://www.gecer.mie-u.ac.jp/student/local/education.html>)

- |             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 別添資料B-1-②-1 | 国立大学法人三重大学と三重県総合博物館との相互協力協定書          |
| 別添資料B-1-②-2 | 三重大学社会連携研究センター社会連携研究室地域圏防災・減災研究センター内規 |
| 別添資料B-1-②-3 | 三重県・三重大学 みえ防災・減災センター設置に関する協定書         |
| 別添資料B-1-②-4 | 三重大学と三重県教育委員会との連携協力に関する協定書            |
| 別添資料B-1-②-5 | ユネスコスクール活動                            |

**【分析結果とその根拠理由】**

本学の社会貢献の目的の実現を目指し、中期目標に掲げる地域貢献に係る目標の達成に向けて、中期計画及び年度計画に基づき、教育・研究・診療等それぞれの分野において、全学として地域貢献活動が実施されている。

以上のことから、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断する。

**観点B-1-③： 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。**

**【観点到係る状況】**

本学は、前述（観点B-1-②）の通り、教育・研究・診療等それぞれの分野において、定められた計画に基づいて適切に地域貢献活動を行っており、具体的な実績、各種アンケート結果及び成果等については以下の通りである。

**I 社会との連携・社会貢献分野****1. 地域の知の支援活動等への取組みについて**

教員免許状更新講習の実施状況については、資料B-1-③-Aに示しており、講習の内容、方法、成果に関する事後評価アンケートを実施し、次年度への改善につなげている（資料B-1-③-B）。公開講座等については、各学部・研究科主催で毎年、さまざまなテーマを掲げて幅広い内容で実施されており（資料B-1-③-C）、代表的なものを資料B-1-③-D～B-1-③-Fに示す。

前述（観点B-1-②）の理数系教員養成拠点構築事業では、本学と三重県教育委員会が連携し、理数系教員養成のための支援拠点の構築、プログラム開発・実施、研修会等を実施しており（資料B-1-③-G、資料B-1-③-H）、アンケート結果においても肯定的な評価を得ている（資料B-1-③-I）。

**2. 地域への知的情報の提供への取組みについて**

附属図書館では、毎年、附属図書館概要を発行し、図書館の利用状況等を明らかにしており（前掲資料B-1-②-F）、学外者の利用状況については、資料B-1-③-Jに示す通りである。

**3. 地域の防災等に関する研究及び支援の取組みについて**

前述（観点B-1-②）の通り、本学は、三重県地域で発生する自然災害に備え、地域圏の防災・減災活動の取組みの充実化や、地域の防災・減災活動を率先して行う人材の育成を行っており、取組み実績については、資料B-1-③-K、B-1-③-Lの通りである。また、修了者へのアンケート結果において、90%以上の修了生から肯定的な評価が得られている（B-1-③-M）。

**II 教育分野****1. 地域の教育活動等への取組みについて**

本学では、前述（観点B-1-②）の通り、高大連携事業として、サマーセミナー、東紀州講座、高校生向け公開授業などを開設しており、スーパーサイエンス・ハイスクールやサイエンス・パートナーシップ・プログラムにも積極的に協力している。これらの取組み状況・活動実績及び参加者等については、資料B-1-③-N～資料B-1-③-Sに示す。

### III 研究分野

#### 1. 地域の研究活動等への取組みについて

地域戦略センターでは、三重県や各種団体等への政策提言や地域産業の活性化を図るため、平成 23 年度より、「地域活性化プランスタートアップ促進業務」や「M I E 起業道場」等を実施し、また、大学発シンクタンクとして、地域振興、産業育成、環境政策、医療福祉政策などの幅広い戦略の立案を行い、百五銀行、百五経済研究所、野村證券、三重 TLO と連携し、地域の自治体に対しての総合的な政策提言や、産業育成・活性化のための企画を行っている。これらの取組により、地域戦略センターでは、地方自治体、民間企業等より多くの事業を受託している（資料B-1-③-T）。

また、地域イノベーション学研究科では、平成 24 年度に本研究科社会人学生が、地域発のイノベティブ製品である「浸漬型膜分離装置（高性能浄化装置）」を開発した（資料B-1-③-U）。

### IV 診療分野

#### 1. 医療活動を通じた地域貢献の取組みについて

本学は、救命救急医療体制の充実化を図り、三重県の救急医療の中心的役割を担っており、三重県から補助金を受け入れ、救命救急にかかる事業を行っている（資料B-1-③-V）。また、平成 24 年 2 月より運用を開始したドクターヘリは、運航開始以来出動回数が増加しており、地域の要請に確実に応えている（前掲資料B-1-②-T）。

平成 25 年度には、文部科学省の「未来医療研究人材育成拠点形成事業」で「三重地域総合診療網の全国・世界発信」が採択され、5年間（平成 25～29 年度）で3億円規模の事業を行うことを計画している（前掲資料B-1-②-V）。

### V 環境分野

#### 1. 環境を通じた地域貢献の取組みについて

- (1) 本学が平成 21 年度に加盟したユネスコスクールは、現在、本学の他に県内 15 の小中高校が加盟しており、今後さらに増加するよう積極的に支援している。また、平成 23 年度より毎年、三重大学ユネスコスクール研修会/シンポジウムを行っている（前掲別添資料B-1-②-5）。さらに、平成 26 年 11 月に愛知・名古屋で開催される「持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として、「ESD in 三重 2014」の開催に向けた準備を行っている（資料B-1-③-W）。

環境・情報科学館では、年間を通して会議・シンポジウム等を積極的に開催している（資料B-1-③-X）。

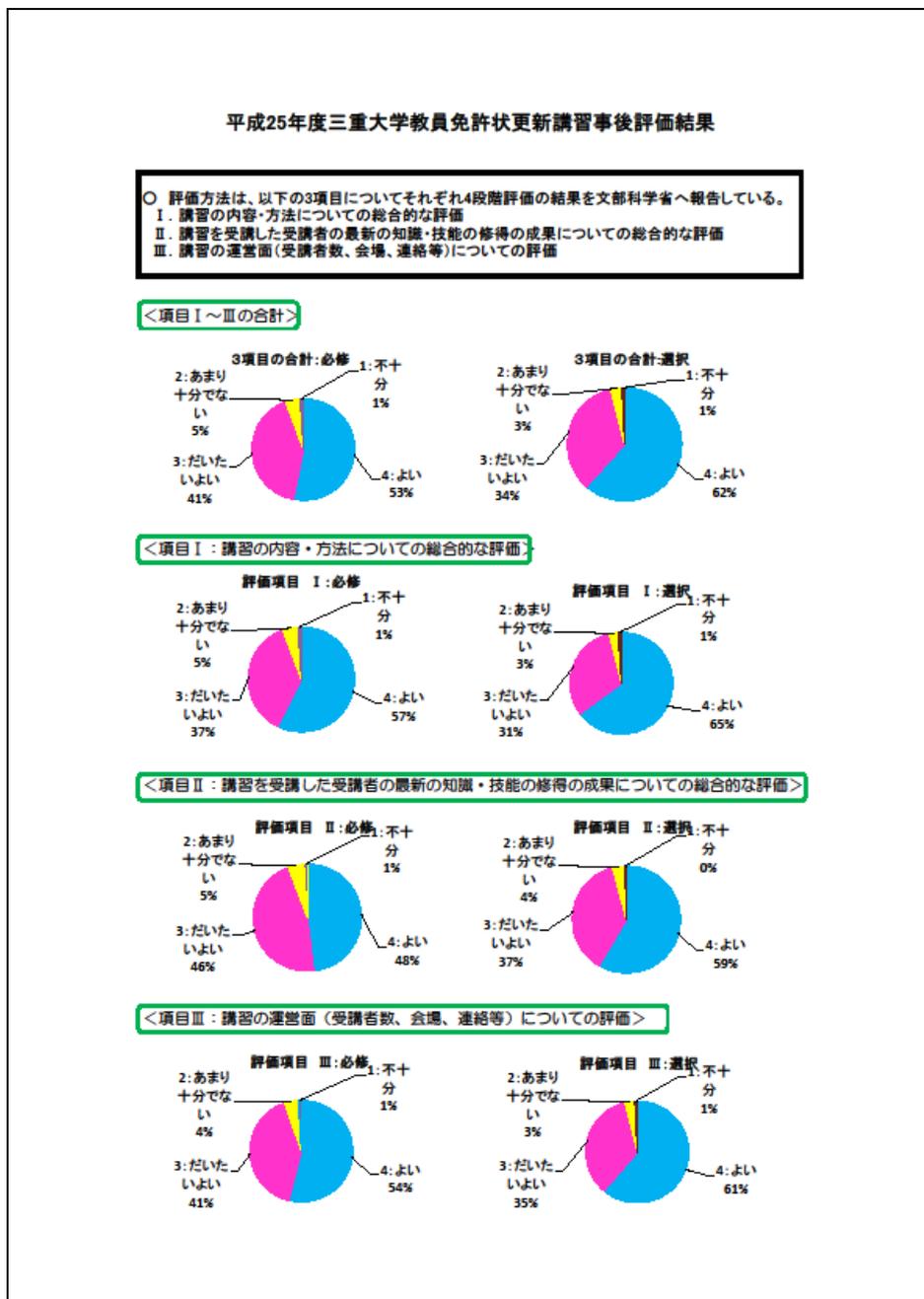
- (2) 本学に隣接している町屋海岸において、環境 ISO 学生委員会が中心となり、地域住民とともに、海岸美化活動を行っている（前掲資料B-1-②-X）。また、近隣の小学校の児童を対象にした環境教育にも積極的に取り組んでいる（前掲資料B-1-②-Y）。

○資料B-1-③-A 教員免許状更新講習実績

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
●必修講習8回, 選択講習 108講習を開設(5~12月)	●必修講習8回, 選択講習 110講習を開設(7~11月)	●必修講習8回, 選択講習 116講習を開設(7~11月)	●必修講習8回, 選択講習 129講習を開設(5~11月)	●必修講習8回, 選択講習 113講習を開設(6~10月)
●受講者数 必修: 763名 選択: 2,082名	●受講者数 必修: 776名 選択: 2,598名	●受講者数 必修: 787名 選択: 2,888名	●受講者数 必修: 779名 選択: 2,693名	●受講者数 必修: 776名 選択: 2,319名

(出典: 教務チーム提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-B 教員免許状更新講習アンケート結果



(出典: 教務チーム作成資料)

○資料B-1-③-C 平成25年度公開講座等実施実績

年度	総参加者数	総実施件数	実績一覧表（下記URL）
平成25年度	14,337名	145件	<a href="http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/pdf/h25koukaikoujisseki.pdf">http://www.mie-u.ac.jp/neighborhood/pdf/h25koukaikoujisseki.pdf</a>

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

○資料B-1-③-D 人文学部：三重大学伊賀連携フィールド事業

上野商工会議所及び伊賀市の連携により「三重大学伊賀連携フィールド」を開設し、シンポジウムや市民講座の開催及び中心市街地活性化のための取組みを行うなど、伊賀地域の地域振興・生涯学習の充実・発展に貢献している。人文社会学研究科の「三重の文化と社会」は地域でのフィールドワーク実践を重視した授業科目で、その成果を現地報告会で発表するとともに、地域交流誌『TRIO』にも掲載し、地域への情報発信を行っている。

実施事業（平成24年度）	参加人数等
1. 伊賀連携フィールド開設記念講演会&シンポジウム「忍者」を活かした観光・まちづくり（平成24年10月5日）	143名
2. 市民講座「忍者・忍術学講座：忍者とは何か」（開催回数：6回）	401名
3. 伊賀忍者古文書講座（開催回数：6回）	受講定員20名・事前申込み制
3. 留学生異文化体験企画（平成24年9月13日）	留学生7名 日本人学生2名
4. 留学生宿泊型文化体験企画（平成25年2月10日）	留学生22名 日本人学生6名
5. 地域活性化事業「伊賀のまちづくり・地域活性化」学生アンケート調査（平成24年9月10日）	23名
6. 伊賀連携フィールドを利用した日本文化体験学習	8名
7. 公開トークイベント「史実の魅力、小説の魅力ー忍者小説の新たな地平」（平成25年3月20日）	260名

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

※三重大学伊賀連携フィールドの活動は平成25年度分も含め以下のページで公開

<http://www.human.mie-u.ac.jp/chiiki/iga/>

※地域交流誌『TRIO』 <http://www.human.mie-u.ac.jp/chiiki/trio/index.html>

○資料B-1-③-E 工学研究科：夏休みものづくり・体験セミナー

<http://www.tech.eng.mie-u.ac.jp/local/local-top/seminar5.html>

工学研究科内の技術部が主催（津市教育委員会後援）し、主に中学1～3年生対象とした夏休みものづくり・体験セミナーを実施した。（募集人員30名程度）

・第5回夏休みものづくり・体験セミナー（平成25年度）

開催日	テーマ	参加人数
8月6日（火）	LEDを使った光るオブジェを作ろう！	10
8月21日（水）	液晶ってなんだろう？	5
8月21日（水）	最先端の電子顕微鏡に触れてみよう！	3
8月22日（木）	オリジナルプレートを作ってプログラム制御と機械加工を体験しよう！	5
8月22日（木）	材料試験を体験しよう	4

（出典：本学ウェブサイトを基に作成）

○資料B-1-③-F 生物資源学部：特別ワークショップ「伊勢湾・三河湾スナメリ観察クルーズ」（鳥羽商船高等専門学校とも連携し実施）

鳥羽水族館がスナメリ飼育50周年を記念して企画されたもので、5月11日（土）、12日（日）に実施。200名ほどの応募の中から選ばれた総勢16名の一般市民が参加した。

<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2013/05/post-592.html>

○資料B-1-③-G 三重 CST 養成プログラム実施実績

	平成 24 年度	平成 25 年度
実施回数	17 (24 年度後期より実施)	40 (前期: 21, 後期: 19)
参加者数 (※延べ人数)	204 (24 年度後期より実施)	527 (前期: 301, 後期: 226)

(出典: 教務チーム提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-H 三重 CST 養成プログラム例 (平成 25 年度前期)

開催日	プログラム	テーマ
4 月 27 日	理科教材開発 1 回目	ものの溶け方と質量保存
	理科教材開発 2 回目	動物の体のつくり ―人体模型の活用―
5 月 25 日	理科教材開発 3 回目	春の植物観察に関する教材開発
	理科教材開発 4 回目	メダカの発生
6 月 1 日	理科教材開発 5 回目	植物の体のつくりと働き―呼吸と光合成の実験法及び導管の観察―
	理科教材開発 6 回目	岩石・化石の観察法
6 月 22 日	理科室の運営と活用 (II 種)	理科室運営・活用の基礎
6 月 29 日	理科教材開発 7 回目	物理実験における ICT 機器の活用
	生活の中の科学 1 回目	味覚の科学
7 月 6 日	理科教材開発 8 回目	電気と磁石
	理科教材開発 9 回目	天文分野におけるアナログ・デジタル・ICT 活用例
9 月 21 日	中間報告会	

(出典: 教務チーム提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-I 事業アンケート結果の一例 (第 1 回三重 CST シンポジウムアンケート)

<http://cst.pj.mie-u.ac.jp/upload/20140227-140129.pdf> (アンケート結果一覧)

	所属	本日の感想	ご意見、ご要望
1	小学校教員	さまざまなポスターを見ることができ、そこから実践例や応用例を知ることができた。今後の授業に役立てていきたい。また、CSTの活動について改めて考えることができ、その中で解決すべき課題を見出すことができた。	CST養成プログラムを受講する中で、視野が広がっているのを感じています。プログラム内容はとても興味深く、学んだ内容を小学校の教育にどう活用していくか、どう応用できるか、考えることが楽しく、実際に活用し、手応えを感じています。また、学んだことを他の教員の方に広めて、「助かったわ。」「子どもが喜んでいた。」などの声を聞くこともでき、理科授業の支援をすることもできています。
2	〃	今までの学びについて、多方面の方々を知っていただいたことに感謝します。自分、そして共に学んだ方たちも、色々迷いながら今日まで来ましたが、学んできたことが生きることを確認することができたと思います。このように交流する場は大切であると思いました。	内容がかぶるものが多数あるように思います。チームにまとめる、テーマごとに分担する等の分担をした方が、もっとより効果的なシンポジウムになるのではないかと感じました。準備物は事前に詳しく指示していただけるとありがたいと思います。
3	中学校教員	今日のシンポジウムを節目として、CSTに向けた取り組みをさらにがんばっていかうと思いました。ポスター発表では、様々な意見を頂き、自分の次の課題も見えてきました。	CSTの認定後も、スキルアップのための場を作っていただきたいです。
4	〃	今後の活動方向が少し見えてきた気がした。日々の授業をわくにはめず、いろいろな方法でこれからも教材研究していきたいと思いました。	ポスターの内容、今日の内容、動きを事前に知り、分担していくと内容がまとまり充実すると思いました。

5	〃	発表も多い切り口で非常に参考になりました。ICT機器の充実が進む中、真の部分として、実物重視の支援としてICT活用という面で、今回学んだことを実践していきたいです。今回の発表者としてパワーポイントは作りました。しかし、作らなくていいとのことでやめました。評価していただいた方のご指摘の通りだと思いました。	・役割分担で効率よく配置するといいです。 ・まだ第一歩ということで仕方ないこともありますが、それぞれのブースにも説明をする教員配置をした方がいいと思います。
6	大学教職員	貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございました。とてもバランスのよいシンポジウムであったと感じます。受講生による発表や、ここまでの道のりの大変さだけが語られるというのではなく、全体像の説明、それらが可能になった経緯、立場の異なる方々からのそれぞれの思いや学びetc…特に、普段あまりお聞きする機会のない、各市町の規模に合わせた教委独自の動き方、進め方、広げ方を模索されているという現状を知ることができたのが、個人的には発見でした。子どもたちの学びを支え、ひらき、ゆたかにしていくのに、当の先生方自身が同僚や同志とともに学ぶ楽しさや、新たに出会う、出会い直す刺激、歓びを手にされていることが、(数人の先生方もおっしゃっていましたが)子どもたちにダイレクトに伝わりつながっていくことであるのだなぁと改めて考えさせられました。	理科が専門でもなく、得意でもない立場からですが…理科好きな子どもを育てたい、理科離れをなくしたい、という目的にとどまらず、小・中いずれにおいても、理科に強い“CST”(教員)が各校にいることで、他教科への影響や接続、連携についても気になります。 (たいぶ先の課題かとは思いますが)理科だけで、“理科につよい子ども”が育つのではなく、様々な教科や世界との連関で、全体で育まれていくといいな…と思います。他教科とのコラボや、CSTの企画する専門性を活かした総合的なプログラムなどができていっただけです。本当にありがとうございます。
7	〃	先生方の発表で、CST事業が活きていることがよく理解できた。	先生方とのネットワークはできかけていることは感じられた。教育学部の学生と先生との交流は強化が必要と感じられた。
8	〃	大学として事業展開に取り組んでおられると感じました。またシンポジウムもそれぞれの立場からの報告があり、工夫あるプログラムが構成されていると感じました。ポスター・ワークショップ発表の場面は、CST中心の運営がなされるとさらに充実するのではないかと思います。	養成したCSTに対するフォローアップ、活用場面の設定等、さらに検討をすすめていく必要があると思いました。関係教育委員会職員、所属校長の参加(シンポジウム等への)をさらに呼びかけていく必要があると感じました。CSTには、多様な授業展開技術をさらに身につけるとともに、他へ還元する伝える力(プレゼンテーション力)を身につけてほしいと願います。
9	その他(企業)	今日に至るまでの企画、立案、運営、今後の課題について、非常に分かりやすい内容で、大変勉強になりました。発表者、報告者、助言者の熱意がすごく伝わってきました。	今後、CSTがより認知されていくよう、企業としても発信できるよう取り組んでいきたいと思っています。
10	その他	・CSTの受講者、教員、教育委員会が一同に会す場合は、大切だと思います。・このような場で、情報交換を行うことで、縦・横のネットワークができ、CST事業がより盛り上がっていくことを期待します。	県内の理科の先生全員が参加できるというイベントになると思います。

(出典：本学ウェブサイトを基に作成)

○前掲資料B-1-②-F 三重大学附属図書館概要 (2013)

[http://www.lib.mie-u.ac.jp/about\\_library/outline/outline2013.pdf](http://www.lib.mie-u.ac.jp/about_library/outline/outline2013.pdf)

○資料B-1-③-J					
・附属図書館学外者利用状況					
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
登録者数	567	534	489	297	440
入館者数	12,879	11,228	11,505	5,237	6,494
貸出冊数	3,467	3,411	3,412	2,111	2,846

(出典：附属図書館概要 (2013) を基に作成)

○資料B-1-③-K 地域防災に係る主な取組状況

事業等名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
みえ防災コーディネーター育成講座	●7/11-11/28 (全13回)で32講座を実施 ●認定者数：67名	●7/3-11/13 (全13回)で32講座を実施 ●認定者数：169名	●6/24-11/11 (全13回)で32講座を実施 ●認定者数：81名	●7/28-12/5 (全13回)で32講座を実施 ●認定者数：53名 ●25年度は女性限定で実施
その他防災研修事業		●みえ防災コーディネーターフォローアップ研修を実施(県内各地で2回実施) ●自主防災組織リーダー研修を実施(津、伊勢の2地区で実施)	●みえ防災コーディネータースキルアップ研修を実施(応急手当普及員講座、ファシリテーター養成講座、防災トーク能力向上講座等)(津、伊勢、名張地区で実施) ●自主防災組織リーダー研修(県内9地区で実施)	●みえ防災コーディネータースキルアップ研修を実施(津、松阪・伊勢、尾鷲・熊野地域で実施) ●女性を中心とした自主リーダー人材育成講座(津、松阪・伊勢、尾鷲・熊野地域で実施)

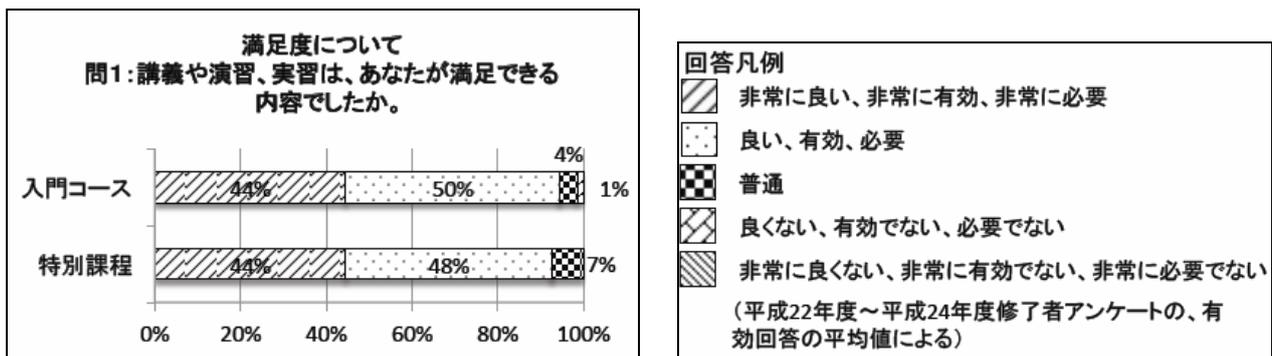
(出典：地域圏防災・減災研究センター提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-L 三重さきもり塾卒塾者数 (現：みえ防災塾)

	H22年度 (第1期)	H23年度 (第2期)	H24年度 (第3期)	H25年度 (第4期)
さきもり入門コース	46名	48名	48名	40名
さきもりコース (特別課程)	17名	12名	14名	12名
計	63名	60名	62名	52名

(出典：地域圏防災・減災研究センター提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-M 三重さきもり塾卒塾者へのアンケート結果



(出典：地域圏防災・減災研究センター作成資料)

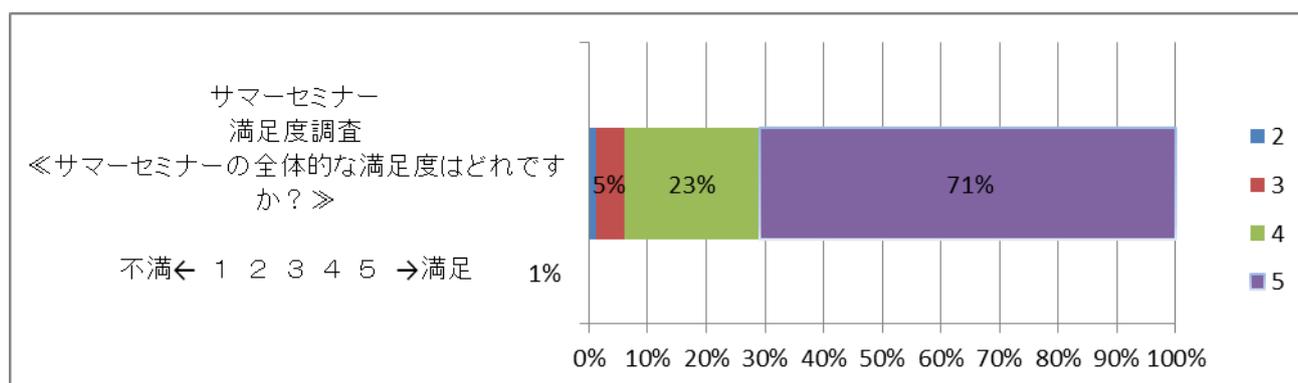
○資料B-1-③-N 平成25年度高大連携サマーセミナー (7月23日(火)～8月13日(火))

開催日	テーマ	参加人数	実施部局
8月6日	日本の社会保障を考える	21	人文学部
8月9日	歌舞伎	16	人文学部
8月13日	日本書誌学	22	人文学部
7月24日	二枚貝の進化と多様性を考える	9	教育学部
7月25～27日	天体画像解析入門	37	教育学部
7月30日	表現を生かした教育の展開	54	教育学部

7月23日, 30日, 8月6日	「シミュレーションを用いた体験型医学医療教育—生理, 解剖から, 最新外科手術まで」	119	医学系研究科
7月29日, 31日, 8月1日 または7, 8日	口腔がんに対する遺伝子治療の基礎研究	14	医学系研究科
8月5, 6日	骨と関節の構造と働き	24	医学系研究科
7月24~26日	簡易ロボットの仕組みと動かしかた	15	工学研究科
8月6日	生物や無生物が発生する音を分析する	15	生物資源学研究科

(出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-O 平成25年度高大連携サマーセミナーアンケート結果



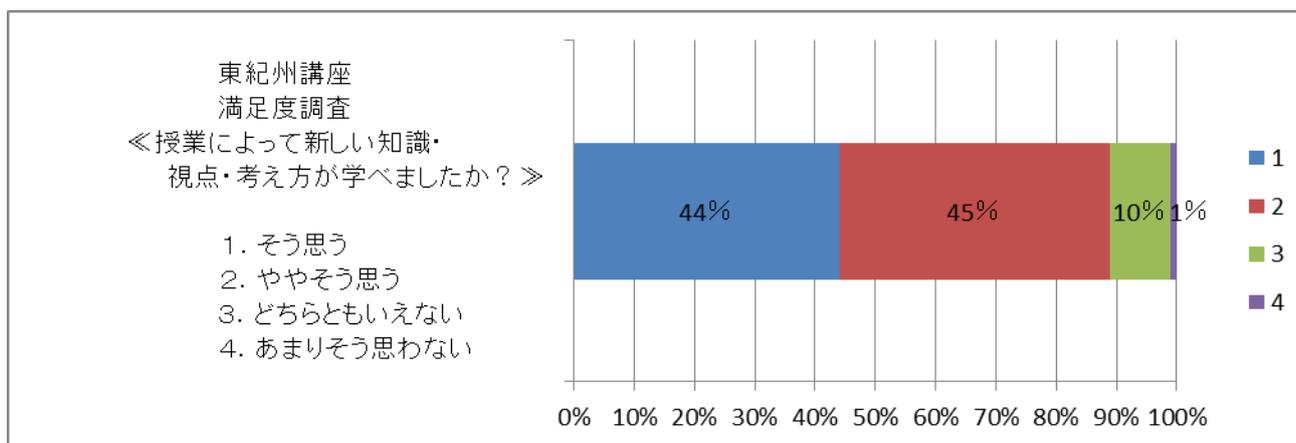
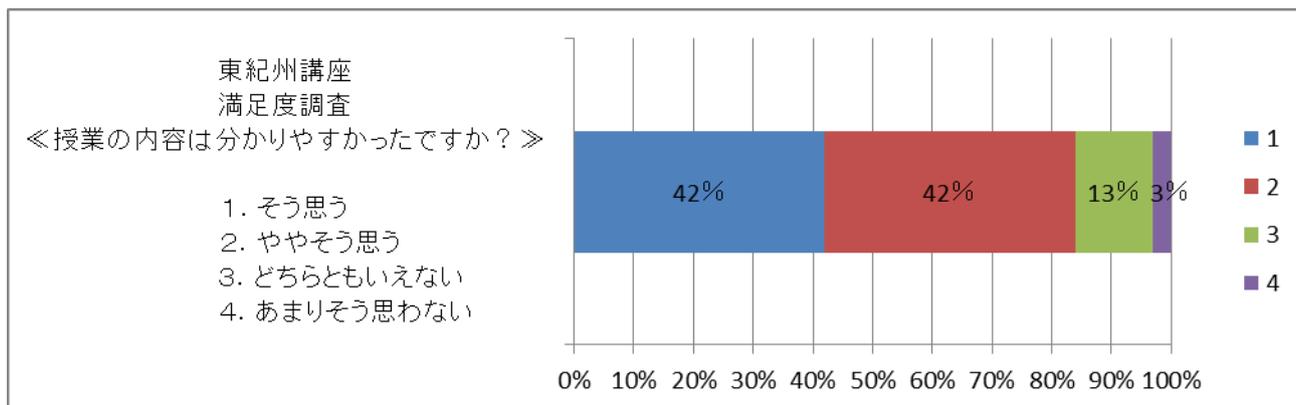
(出典：高等教育創造開発センター作成資料)

○資料B-1-③-P 東紀州講座実施実績

開催日	開催校	テーマ	参加人数	担当部局
6月15日	尾鷲高校	臨床医学者への道：A Roadmap to Physician-Scientists	36	医学部
7月6日	木本高校	江戸時代の旅文化と熊野古道	43	人文学部
7月20日	尾鷲高校	古代紀伊国と伊勢湾・熊野灘	38	人文学部
7月27日	木本高校	過疎問題と地域の活性化	29	人文学部
7月31日	尾鷲高校	化学とサステナビリティ	43	工学研究科
8月1日	木本高校	巨大地震・津波災害に備える	64	工学研究科
8月5日	尾鷲高校	DNAと生命科学, がんとは? iPS細胞とは?	53	医学系研究科
8月6日	木本高校	環境にクリーンな技術の研究開発の紹介	43	工学研究科

(出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-Q 東紀州講座アンケート結果



(出典：高等教育創造開発センター作成資料)

○資料B-1-③-R 平成25年度スーパーサイエンス・ハイスクール実施実績

高等学校名	開催日	内容	参加人数	担当部局
津高等学校	7月30日	スーパーサイエンス探求活動Ⅰ	6	生物資源学研究所
	8月1日	スーパーサイエンス探求活動Ⅰ	12	医学系研究所
	8月8日	スーパーサイエンス探求活動Ⅰ	5	工学研究所
	5月13日	スーパーサイエンス研究活動 生命科学1	8	医学系研究所
	5月20日	スーパーサイエンス研究活動 生命科学2	8	医学系研究所
	5月29日	スーパーサイエンス研究活動 生命科学3	8	医学系研究所
	6月13日	スーパーサイエンス研究活動 生命科学4	8	医学系研究所
	6月24日	スーパーサイエンス研究活動 生命科学5	8	医学系研究所
伊勢高等学校	5月22日	講義「効果的なプレゼンテーション～ポスター発表について」	104	教育学部
	6月8日	大学研究室訪問・講義+実習	24	工学研究所
	6月16日	大学研究室訪問・講義+実習	22	教育学部
	6月16日	大学研究室訪問・講義+実習	21	医学系研究所
	7月5日	第1回地域の諸問題に関する特別講義・講義	25	人文学部
	7月5日	第1回地域の諸問題に関する特別講義・講義	97	教育学部

7月5日	第1回地域の諸問題に関する特別講義・講義	35	医学系研究科
7月5日	第1回地域の諸問題に関する特別講義・講義	47	生物資源学研究科
7月5日	音楽系クラブ特別指導	40	教育学部
7月5日	SSC 数学部門特別指導	15	教育学部
7月13日	大学研究室訪問・講義+実習	25	生物資源学研究科
7月28日～7月29日	「勢水丸」乗船研修・講義+実習	32	生物資源学研究科
8月5日	「中央構造線」フィールドワーク・講義+実習	20	生物資源学研究科
12月14日	大学研究室訪問・講義+実習	4	人文学部
12月6日	第2回地域の諸問題に関する特別講義・講義	29	教育学部
12月6日	第2回地域の諸問題に関する特別講義・講義	22	医学系研究科
12月6日	第2回地域の諸問題に関する特別講義・講義	20	工学研究科
12月6日	第2回地域の諸問題に関する特別講義・講義	7	生物資源学研究科
3月7日	第3回地域の諸問題に関する特別講義・講義	25	教育学部
3月7日	第3回地域の諸問題に関する特別講義・講義	16	医学系研究科
3月7日	第3回地域の諸問題に関する特別講義・講義	11	工学研究科
3月7日	第3回地域の諸問題に関する特別講義・講義	17	生物資源学研究科
通年	「課題研究」の指導	83	全学部研究科

(出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成)

## ○資料B-1-③-S 平成25年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

高等学校名	開催日	内容	参加人数	担当部局
津西高等学校	7月5日	太陽電池について(事前学習)	25	工学研究科
	7月12日	燃料電池について(事前学習)	25	
	8月2日	太陽電池について(三重大学にて実習)	13	
	8月6日		12	
	8月6日	燃料電池について(三重大学にて実習)	25	
	8月7日	風力発電について(三重大学にて実習)	14	
	9月26日	太陽電池について(事後学習)	25	
	9月26日	燃料電池について(事後学習)	25	
	12月16日	太陽電池について(学習発表会)	24	
		太陽電池について(学習発表会)	25	

(出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成)

## ○資料B-1-③-T 地域戦略センターが受託した事業の相手別件数・金額について

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
地方自治体等	7件	10件	9件
民間企業等	3件	2件	3件
計	10件	12件	12件
受託額	51,600千円	52,180千円	47,877千円

(出典：地域戦略センター提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-U 地域イノベーション学研究科社会人学生が研究開発した製品



**膜分離装置 (NEW-X1) の概要及び特徴**

メンテナンスの経験を活かし、ユーザー視点に基づいて、新しい浸漬型膜分離装置を開発しました。

性能（膜面積、ろ過性能）・耐久性・保守性の向上により小型化・低動力化を可能とし、コストダウンを実現します。

汚泥再生処理・合併浄化槽・集落排水処理・産業廃水処理、さらには中水や汚泥濃縮の分野まで、あらゆる固液分離に威力を発揮します。

**コストダウン**

膜枚数を少なくすることで、水槽・膜洗浄ブロワ等の関連設備のインニシャルコストを低減。大幅なコストダウンが可能です。また、ブロワ動力などのランニングコストも低減。CO2削減に寄与します。

**新機能**

**ツインノズル**

ノズルを二カ所に設けました。これによりろ過抵抗を抑え、高いろ過性能を実現しました。

**チューブ**

曲げ応力に対応したカーブ設計で長めのチューブを採用。ノズルとの接続部が硬化してもそこを切り取って再利用できます。

**安全設計**

ハウジングは、耐久性に優れたSUS製を採用。衝撃に強く、据え付け・維持管理時の負担を軽減できます。

(出典：地域イノベーション学研究科作成資料)

○資料B-1-③-V 救命救急関係補助金受入実績

(単位：千円)

補助事業名等		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医療提供体制推進事業 補助金	救命救急センター運営事業	69,530	78,431	74,494	63,628
	ドクターヘリ運航事業		38,223	211,765	211,765
	受入困難事案患者受入医療機関支援事業		3,551	3,186	2,911
救命救急センター設備 事業補助金		92,400			

(出典：附属病院提供資料を基に作成)

○資料B-1-③-W ESD in 三重2014 <http://www.gecer.mie-u.ac.jp/student/local/clean.html>

## ○資料B-1-③- X 環境・情報科学館におけるイベント・会議等の開催状況（平成25年度）

開催日	イベント・会議名称等	実施内容等
6月6日(木)	「グリーンカーテン」の設置運動	夏場の暑い時期の省エネ対策として、太陽光遮断による冷却効果を狙って、ゴーヤによる「グリーンカーテン」の設置運動を実施した。「世界一の環境先進大学」を目指すクール・アクションの一環として実施。
6月19日(水)	平成25年度省エネ及び環境マネジメント研修会	クール・アクション活動を教職員一同と取り組むために、節電の必要性と蒸し暑い夏を快適に過ごすためのワークスタイルの変革について研修が行われた。
6月21日(金), 6月24日(月)	第1回・第2回環境学習	北立誠小学校の学生に、「3R (Reduce, Reuse, Recycle)」をテーマに環境学習を実施。
7月5日(金)	「七夕ECOナイト～消してMIEるエコな光～」	学生・教職員・地域の方々と節電について考えるイベントとして、キャンドルナイトを実施。
9月4日(水)	「環境報告書2013 環境座談会」	「三重大学環境報告書2013」の作成に伴い開催。25年度は、「スマートキャンパス/スマートコミュニティの創出」について、学内外の有識者を交えて座談会を実施。
9月5日(木), 9月6日(金)	第3回・第4回環境学習	北立誠小学校の学生に、「自然エネルギー」をテーマに環境学習を実施。
2月12日(水)～2月28日(金)	特別展示「志摩の海女資料展」	海女文化が全国で初めて県の文化財に指定されたことに伴い（三重県無形民俗文化財）、本学と友好協力協定を結んでいる海の博物館、志摩市歴史民俗資料館及び川口祐二（三重大学客員教授）氏の全面的な協力を得て開催。
2月15日(土)	三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム2013	県内ユネスコスクール加盟の学校の代表者による事例報告や三重大学ユネスコスクール学生委員会・国際交流センター留学生による活動報告が行われ、ESD（持続可能な開発のための教育）の発展を考えるシンポジウムとして実施された。
3月15日(土)	平成25年度エネルギー環境教育成果発表会	本学と中部電力株式会社が協働で事業として行っており、平成19年度より毎年成果発表会を行っている。中部電力から、エネルギー供給者としての取組みや次世代へのエネルギー環境教育への期待が述べられ、本学からは、「大学生及び地域の環境リーダーを対象としたエネルギー環境教育」の成果報告等がされた。

(出典：本学ウェブサイトを基に作成)

## 【分析結果とその根拠理由】

シンポジウムや研修会等各種事業においては学内外から多くの参加者数の実績があり、例えば、三重さきもり塾、高大連携サマーセミナー、東紀州講座などアンケートにおいても参加者から肯定的な評価が得られていることが確認できる。

以上のことから、活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果は上がっていると判断する。

## 観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。

## 【観点に係る状況】

高大連携事業等の実施状況については、高等教育創造開発センターの7部門（平成25年度末時点）の部門長が集まる部門長会議や、高大連携推進専門委員会において報告され、次年度への改善策等が検討されている。具体的には、高大連携をさらに充実・発展させるために、三重県内の遠隔地等の高校が本学の授業への参加を可能とする取組みとして、新たに本学と当該高校をリアルタイムでつなぐ遠隔授業の仕組みを検討している。

さらに、公開講座については、教育を担当する理事をトップとする全学的な組織として公開講座実施委員会を組織し、公開講座全般にかかる企画・運営・検証を行っている（年2回開催）（別添資料B-1-④-1）。

これら公開講座、高大連携事業等の実施状況は、教務委員会（現：教育会議）にも報告され、当会議の指摘事

項等についても次年度への改善につなげている（別添資料B-1-④-2）。

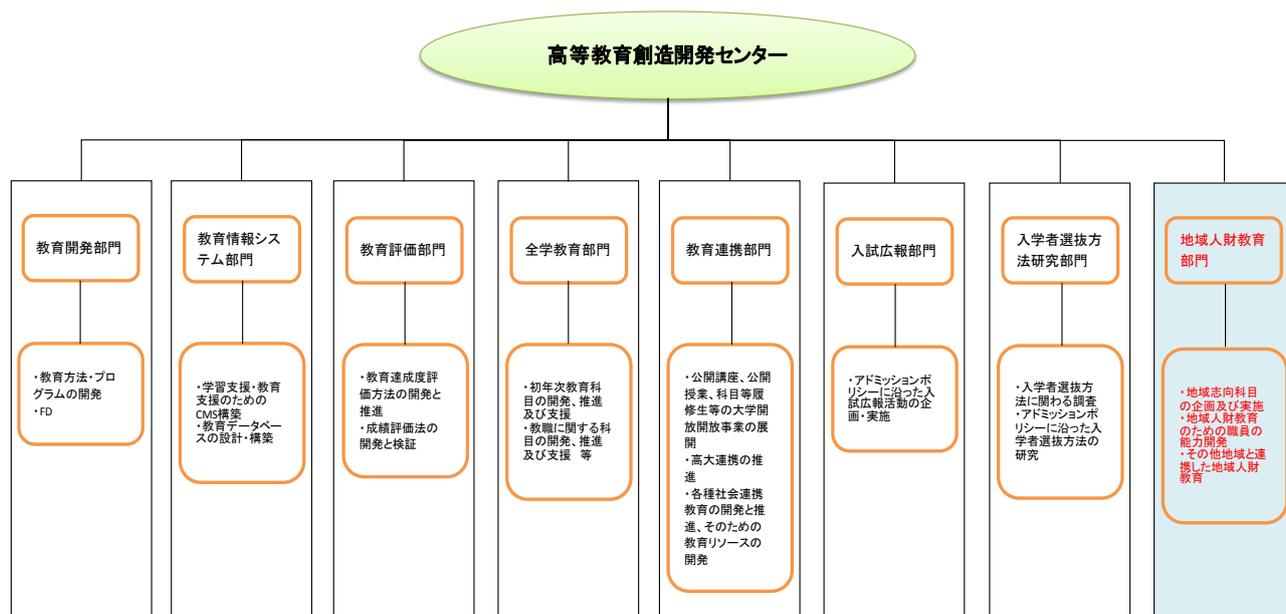
また、平成26年度には、高等教育創造開発センター内に地域人財教育部門を新設し、「地域志向の教育・研究」をさらに発展させる試みをスタートさせた（資料B-1-④-A）。

地域戦略センターでは、学長を議長とする地域戦略センター幹部会議で活動方針等の大局的な事項が決定され、具体的な活動内容については、地域戦略センター連絡調整会議で取り決めている。地域戦略センター連絡調整会議において、地域戦略センターの活動にかかる実績の報告及び以後の改善策等が議論され、地域戦略センター幹部会議に報告される体制をとっている。いずれの会議も2か月に1度のペースで実施しており、本学の担当理事・副学長をはじめとする本学担当者に加え、三重県、野村證券、百五銀行などの学外有識者で構成されている（資料B-1-④-B）。

また、今後の取組みとして、教育・研究を担当する5学部・6研究科と本センターを有効に連動させることで、「地域再生・活性化の核となる大学」としての機能をさらに強化することを目指す。

各学部等においては、公開講座、出前授業等の実施にあたり、各学部内に企画会議や委員会等が置かれ、毎年検証・改善を行いつつ次年度の活動につなげている。

○資料B-1-④-A 高等教育創造開発センター組織図（平成26年4月1日現在）



（出典：高等教育創造開発センター提供資料を基に作成）

○資料B-1-④-B 地域戦略センター 概要・組織 <http://rasc-mie.jp/organization>

○別添資料B-1-④-1 平成25年度公開講座実施委員会事項書（第1回，第2回）

○別添資料B-1-④-2 平成25年度教務委員会（現：教育会議）報告事項

【分析結果とその根拠理由】

高大連携事業や公開講座等については、高等教育創造開発センター部門長会議、高大連携推進専門委員会、公開講座実施委員会、教育会議（旧：教務委員会）等において、各事業に関する企画、検証、報告等が行われている。地域戦略センターの活動については、地域戦略センター幹部会議や地域戦略センター連絡調整会議において、方針等の決定、各事業の検証・報告が行われている。

また、各学部等においても、各学部内に企画会議や委員会等が置かれ、各学部の事業について検証が行われている。

以上のことから、大学の地域貢献活動に関する改善のための取組が行われていると判断する。

## (2) 目的の達成状況の判断

本学の「基本的な目標、基本理念及び社会貢献に関する目的」の実現に向けて、教育・研究・診療等それぞれの分野で、定められた計画に基づいて適切に地域貢献活動が行われており、具体的な実績及び成果等が得られ、さらに、各種事業にかかるアンケート調査において多くの参加者から肯定的な評価が得られている。また、組織的な検証体制を整備している。

以上のことから、目的の達成状況が良好であると判断する。

## (3) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・高校生が自発的に大学で勉強できる機会を提供するために、サマーセミナー、東紀州講座、高校生向け公開授業などの開設、県内高校によるスーパーサイエンス・ハイスクールやサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトへの協力、オープンキャンパスや出前授業などの高大連携の取組を実施するとともに、地域の高校生が本学の講義・演習・実験・実習に参加できる機会の提供を推進している。
- ・平成24年度に、本学と三重県教育委員会が連携し、理数系教員養成プログラムの開発・実施や、地域の理科教育における拠点の構築・活用などを通じて地域の理科教育において中核的な役割を担う教員を養成する事業として、科学技術振興機構より理数系教員養成拠点構築事業を受入れた。
- ・平成26年2月に、三重県総合博物館との間で相互協力協定を締結し、三重の自然と歴史・文化などの地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに取り組んでいる。
- ・社会連携研究センター内に「地域圏防災・減災研究センター」を設置し、三重地域圏の産学官民連携による防災・減災活動の連携による推進体制を強化した。また、平成26年4月には、地域防災に携わる人財の育成や研究成果の創出などについて、三重県と共同で取り組む全国初の組織として、「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」を設置した。
- ・社会連携研究センター内に「地域戦略センター」を設置し、地方自治体と連携して地域が抱える産業育成、地域振興、観光政策、環境政策等の諸問題に対する政策提言・提案等を行っており、大学が蓄積する知の活用によって地域が抱える課題の解決策を提供する総合シンクタンクの役割を果たすことを目指している。
- ・大学全体として地域貢献活動の創造及び推進を目的に、平成20年度より、本学職員を代表者とする教育・研究に基づく自主的な活動を「三重大学地域貢献活動」として毎年公募を行い、選定し、必要な経費を助成支援している。
- ・平成21年4月に、研究成果等の社会への還元を目的に、社会連携を大学院教育に取り入れた全国初の独立研究科として「地域イノベーション学研究科」を設置し、地方産業界が求める即戦力型人財の育成に取り組んでいる。平成24年度には本研究科社会人学生が、地域発のイノベティブ製品である「浸漬型膜分離装置（高性能浄化装置）」を開発するなど、地域発のイノベーションを創出する高度な研究成果が出ている。
- ・平成24年2月に、ドクターヘリの運用を開始し、救急現場から迅速かつ高度な医療活動を行うことにより尊い人命の救助につなげる等、地域の要請に応えている。
- ・地域医療の支援について、実際の診療などを通じ、医療保健体制に関する教育・研究を行い、最適な地域医療

体制の確立を目指すことを目的として、三重県各地域に地域医療学講座を設置している。さらに、平成25年度には、文部科学省の「未来医療研究人材育成拠点形成事業」において「三重地域総合診療網の全国・世界発信」が採択され（5年間3億円余）、さらなる地域医療学講座の設置や地域医療活性化の基礎的教育研究システムの構築を進めている。

- ・平成24年度に、本学の自主財源で「環境・情報科学館」を整備し、本学教職員だけでなく地域住民に対し、環境に関する取組や環境成果を分かりやすく展示し、環境を学べるコーナーや交流スペースを設け、地域との交流・協働の場を提供している。また、当館において、環境団体や企業、自治体などと連携して環境教育・研究等の情報発信を行っている。
- ・全国の国立大学では数少ない「海に近い大学」として、海の環境を守るべく学生（環境ISO委員会）が中心となり、地域住民とともに、年5回、ゴミ拾いなどの海岸美化活動を行っている。また、当該活動と並んで、近隣の小学校の児童を対象に、環境問題等について学習する機会を設け、環境に対する意識の向上を図っている。

#### 【改善を要する点】

特になし